

例ハ五尋五ニ於ケル百七五米ハ通常兒童ガスプリント乃至ロングスプリントニテ走ル場合ニ於テハ生理的ニ思考スルモ鍛練ヲ意味スルト雖モ、オーバーワーク、ヲ意味セズ見ル路程ノ限度ナリト見ルモノナリ。

故ニ容易ノ走法ヲ用フル時ハ中乃至長距離ヲ行フモ、妨ゲナク、百七五米以内ノ距離ノ競走ヲナスモ、(スプリントニヨル時)程度ノ低キヲ意味セズ。一七五米ハ其ノ限界ト見ルモノナリ。

標準距離ノ個別的取扱

各學年ノ路程ハ通常兒ヲ根據トスルモノナレバ、コレヲ超跳セル兒童ハ隨ツテ高級ノ標準ヲトルモ不可ナキモノニテ、ヘビートレーニングノ見地ヨリスル時ハ正ニカクアルベキモノナリ。

コレ本校ニ於テ全兒童ノレコードヲ取りシ所以ノモノナリ。

而シテ弱兒ニアリテハ其ノ距離ヲ縮ムルカ或ハ走法ノ變更ヲナセバ可ナリ。

### 三、性別による路程の見方

本校ニ於テハ實際ヨリ歸納シ、理論的ニ思考スルニ尋常科ニ於テハ標準路程ニ於テ性別ノ加味ヲ必要トセズト考フ、故ニ本校ノ標準路程ニ於テ尋常科ニ於テハ異ナラザル所ナリ。

唯其ノ走法ニ於テハ幾分ノ斟酌ヲ加フル必要ハ認ムルモノナリ、サレバ女子ニ於テハ中乃至長距離ヲ加ヘザルヲ可トス(後出)

高等科ニ至リテ始メテ距離ニ差違ヲ生ゼシムベキヲ適當ト觀ジ前記ノ如クセシモノナリ。

### 四、距離による種目の發達の見解

1. 大別シテ短距離、中距離、長距離トスル時、概言セバ幼學年ニ於テハ短、中、高學年ニ於テ短、中、長ヲ行フ。

而シテ女兒童ニハ中及長距離ハゲームトシテハ行ハザルモ其ノ呼吸走法ニ及バシム。

#### 2. 短距離、

A 短距離トイフ所ノモノハハ力ヲ以テ疾走スル所ノ競走即チ、スプリントニヨル競走ナリ。成人ノゲームニ於テハ今ヤ四百米ヲモ短距離ト見ントスル期ナリ。本校ニ於テハ兒童現狀ニ立脚シ尙發展的ニ眺メテ小學兒童ノ短距離ヲ二百五〇米迄ト見ルモノナリ。

B 各學年別性別ニヨル短距離競走

小學校ニ於ケル短距離ノ限度ヲ二百五〇米ヲ適當ナラントセシハ前記ノ如シ。之ヲ學年別及性別ニ見ル時コノ本校ノ標準路程ヲ適當ナラント思考ス。



茲ニ注意スベキハ高學年ニ於テ二百又ハ二五〇米トセルハ短距離競走中ニ於ケル、最も長キモノナリ。コレ以下ノ百又ハ五〇米ハ其ノ學年ノ短距離トシテ行フモ妨ナキモノナルコトナリ。

再ビイフ、言フ所ノ短距離トハ兒童ガ、全力ヲ以テ走り得ルモノナリ。

C 隨ツテ短距離モ個人的短距離即チ各人ニ適當スベキモノガ各異ルハ勿論ナリ。サレド又、一定ノ年齡ニ於テハ一定ノ短距離ヲ抽象シ得ルモノナリ前記ノモノハコレニシテ、前記ノ距離ニ個人的考察ヲ要スベキハ言ヲ待タズ。即チ謂フ所ノ精神ノ年齡ノ如キ、運動年齡ノ如キモノニ考慮ヲ要ス。

D 幼學年ト短距離

疾走ガ兒童ノ好ム處ナルハ吾人ノ常ニ目撃スル處ナリ。

之ヲ考フルニ、兒童ノ心理、生理ニ歸セザルベカラズ。元來兒童ノ心理ガ快活ナレバ、コノ心理ト、競走ノ性質タル所ガ、一致セルヲ以テ、先兒童ハ心理的ニ之ヲ好ムニイタル。

兒童ノ好ム所以ハ單ニ心理的要求ノミニ非ズ。彼等ノ生理的状況ニ念ヲ及バサザルベカラズ。兒童ハ心臓ノ大サニ對スル動脈ノ大サノ比ガ成人ニ於ケル比ヨリ遙ニ大ナリ。故ニ彼等ハ疾走

### 3、中距離

A コハ短距離ト長距離トノ中間ニアルモノニシテ、其ノ走法ヲ見ルニ平凡ノ如キモ働作用ニ於テハ大ナルモノナリト稱サル。小學校兒童ノ背景トシテ見ル時コレニハ持久ノ力ヲ要スルヲ以テ幼學年ヨリ直チニ入ルルヲ得ズ。

スルモ大ナル苦痛ヲ感セサルナリ。(血行ニ心臓ノ努力少ナレバ)コレニヨリ彼等ノ心理的要求ニ從ヒテ競走ヲ好ム所ナリ。サレド、彼等ハ尙、自己ノ力ヲ自覺シテ永續的ニ平均ニ自己ノ力ヲ出スノ處置ヲ取ルコトハ困難ナリ。

茲ニ於テ吾人ガ幼學年ニ於テ短距離ノミヲ取ル所ナリ。

B 本競走ヲ用ヒシムルハ尋常五年ヨリチ安全ナリト考フ。但シ其ノ走法氣分ニハ尋三年ヨリチナスガ適當ナリ。

C 各學年ノ距離ト方法

- a 尋三、四ニ於テハ其ノ走法ノ大要ヲ知ラシメ  
百米乃至、二百米位ヲ行ハシメ氣分ヲ作成セシム。
- b 尋五ニ及ヒ、ゲームトシテ行ハ



其距離ハ二百乃至三百米。

。尋六年以上ニ至リテハ之ヲ行フハ其ノ精神的效果ニ於テモ大ナレバ、競走ヲ正式ニテナスモ可ナラント考フ。距離ハ三百米乃至、六百米。

D 兒童ノ生理解剖乃至心理的ニ考察シテ之ヲ中學年ヨリ行ヒシ所以ナリ。

#### 4、長距離

之ヲ行フハ尋五以上ヲ適當ト考フルモノナリ。コレ尋五ニ至ラバ自己統制ノ力ヲ得テ、自然のニ徐々ニ自己ノ力ヲ持續シテ出スヲ得ベク、生理的ノ組織ニ於テモ、オーバーワークトナルコトハナシト考フ。

サレド、其ノ方法ノ考慮ハ敢テ言ヲ挿ムノ要ナカラシ。

。コノ競走ハ其ノ精神的陶冶ニ及ブコト大ナルヲ以テ其ノ訓練ノ練習モ自己ヲ知ルノ内省ヲ要スルコト緊要ナリ。

距離ハ千乃至三千米ヲ適當ト考フ。

### 五、走法の發達の見解

成人ノ競走ニ於テハ六種ノ走法ヲ稱フルモ、兒童ニハ望ムベキニ非ザレドモ、大體ハ高學年ニハ到リ得ルモノナリ。

サレバ、幼學年ニテハ Very natural running ヲ用ヒ、次第ニ巧緻ニ導キ

而シテ六年頃ヨリハ Physical training ニ及バシム。

#### (一) 時間

#### 一、發達的に見て駢足時間

コレニ就イテハ大家ガ意見ヲ出セル所ナルモ本校ニ於テハ

尋一、二——二分乃至五分、尋三、四 五分——十分、尋六 十分——二〇分、高等科二〇分——三〇分、高女——六年ノヲ適用スルモノナリ。

。コノ時間ト距離トハ相關的ノモノナレバコノ間ノ注意ハ考慮スベシ。

前記ノ長距離ノ距離モコノ時間ヲ出アザル様ニ制定セシモノナリ。

#### 二、標準レコード、トレノード



標準レコードニ對シ本校ニ於ケル見方ハ理想ノ意ヲ有セシメズ、普通、トイフ意ヲ有セシム。  
 故ニ本校ニ於テノ標準レコードハ兒童 在(嚴密ニイハバ近キ過去)ノ結果ニ立脚シ當該學年ニ於テハコ  
 ノレコードニハ通常ノ身體ヲ有スルモノハ到リ得ベキモノナリ。  
 故ニコノレコードヲ破レルモノハ各學年ニ於テ既ニアリ。  
 本邦ノ體育協會、其ノ他ニ於テ制定スル標準レコードハ、無論、現存レコードニ據ルト雖モ、可ナリ理  
 想的ノ意ヲ含ムモノナリ。コレ本校ニ於テ見ル所ト異ルモノニテ、本校ノハ當然而モ直チニ到ルベキモ  
 ノナリ。

### 三、本校の標準レコード

前記ノ見地ニ基キ、數回ノレコードヲ參照シテ定メタルモノニシテ、各學年共次ノ如シ。  
 次コ記スルモノハ尋三以上ハ距離一〇〇米ナリ、コレ本校ニ於テ競走ハメンバー作成ノ際、レコード別ニ  
 シテ組別ヲナシ、更ニ學年ナル人爲的境ヲ超跳シテレコードニ基ツキナサントセシ、個人觀ニ立脚シテ  
 測定セルレコードニ基ヅキ制定シタレバ  
 尋一 五〇米 十一秒

尋二	七五米	十二秒
尋三	百米	一九秒 一八秒 $\frac{2}{5}$
尋四	同	一八秒 $\frac{2}{5}$ 一七秒 $\frac{2}{5}$
尋五男	同	一七秒 $\frac{2}{5}$ 一六秒 $\frac{2}{5}$
尋五女	同	一八秒 $\frac{2}{5}$ 一七秒 $\frac{2}{5}$
尋六男	同	一六秒 $\frac{2}{5}$ 一六秒 $\frac{2}{5}$
尋六女	同	一八秒 一七秒
高男	同	一六秒 一五秒
高女	同	一八秒 一七秒

尙百米ヨリハ特ニ曲線、直線コースニヨリテ差別ヲ設ケタルハ、本校兒童ノ尙訓練ヲ經サレバコーナー  
 不得手ニ基キタルモノナリ。



#### 四、來年度の標準レコード

來年度ノ標準レコードハ本年中ノ結果ニ即シ新ニ改造サルベシト思考ス。  
標準ハ固定ニ非レバナリ。  
流動スベク進歩スベシ。

#### 第三、體操に於ける駢歩と競走

當校ニ於ケルコノ兩者ノ關係ノ見解ハ、兩者ノ性質ヨリ立脚地ヲ求メントスルモノナリ。  
體操ニ於テハ心理的努力、緊張ハ競走時ニ於ケル、其レヨリ少キヲ常トスルモノ、前者ハ生理的解剖内至物  
理的ニ考察スル所ノ完全ノ發達ヲ計ルモノナリ。  
茲ニ前者ハ、基本乃至型ヲ意味ス。  
是ニ基ツキ精神昂奮ニヨル自己統御ノ競走ハ其ノ本質ヲ發揮スルモノト思考ス。  
尙言ハントスル處ハ體操科ニ於ケル駢足ト競走トハ目的及方便ナル差別的意味ヲ含ムモノニ非ルコトナリ。

#### 第四、其の他の注意

##### (一) 自己統制

自己ノ體力ヲ知り自己ヲ動かカス。茲ニ自覺自治ハ相關的ニ發達スベキモノナリ。  
人格ノ獨立モ自由意志ノ修練モ必然的ニ行ルルヲ信ズルモノナリ。

當校ニ於テハ特ニコノ精神的訓練ヲ徹底スベク企圖シ實行シツツアリ。

##### (二) 年齢ト行程時間

既ニ諸所ニ記セル處ニシテ更ニ言フヲ要セザラン。  
サレド、再ビ言フノ要ヲ感ズル程、緊要重大ト思考セザルヲ得ザルモノ、當校ニテモ特ニ意ヲ用ヒ  
ツツアルモノナリ。

##### (三) 個性(個人)ニ立脚彼

既ニ學年ニ配當セル行程、標準レコードヲ記セリ。教育其物ガ個性ニ立脚スベク、現實ニ出發スベ  
キテアル以上、コノ考慮處置ノ當ヲ得ベキヲ論ヲ待タス、特ニ本競走ノ如キ切ニ感スル處ナリ。

##### (四) 季節、氣候氣象ノ考慮

循環呼吸其ノ他ニ激甚ナル影響ヲ與フルモノナレバ特ニコノ點ニ注意ヲ要ス。  
當校ニテハ等ニ自覺的ニ導クベク進ミツツアリ。



遊技		體操		教練		種目 學年
冬	夏	冬	夏	冬	夏	
70%	70%	15%	15%	15%	15%	尋一
70%	70%	15%	15%	15%	15%	尋二
60%	45%	30%	45%	10%	10%	尋三
60%	45%	30%	45%	10%	10%	尋四
60%	45%	30%	45%	10%	10%	尋五
60%	45%	30%	45%	10%	10%	尋六
60%	45%	30%	45%	10%	10%	高一
60%	45%	30%	45%	10%	10%	高二
						備考

遊技	體操	教練	種目 學年	
			尋	高
70%	15%	15%	尋	一
70%	15%	15%	尋	二
45%	40%	15%	尋	三
45%	45%	10%	尋	四
45%	45%	10%	尋	五
45%	45%	10%	高	一
45%	45%	10%	高	二
				備考

四、體操科教授時間中に於ける體操教練遊技競技の教授時間的配  
 一時間乃至半時間の體操科教授の實際に於ける體操、教練遊技競技を學年により四  
 季寒暑により如何に配合すべきかが問題である。次に著者の立場から見ての配當表を  
 掲げる事とする。

一時限内の教授時間的配

各學年に於ける季節的配



## 第四編 兒童運動會の構成論

### 第一章 從來の運動會に對する改造要點

#### 一、一時的の練習技である。

運動會は決して一時的の會では無い。又一時的に終らしめてはならぬ。世間には毎年十月、十一月には運動會のシーズンが來た。運動會せねばならぬと考へ、番組を作つて練習を始める。又練習しては番組を編成する。其等の人々の頭の中には特に運動會遊戯競技といふ物を假想して居るらしい。即ち運動會のプログラムを見ると平常の課業として練習も教授もして居らぬ如き遊戯競技を澤山羅列してある。そして此の運動會が終ると來年の運動會シーズンまでは忘れられて居る。其の證據には運動會の時

に特に運動會用の運動具が新らしく作られ、それは平常は少しも用ひられて居ない。其時の旗、帽子、ダルマ何々云々と皆物置倉庫に整然と否雜然と藏せられて、一ケ年に一度の使用になつて居る。以上の如くして運動會シーズンには學年的に定められた一時的練習運動會技が行はれて來た様である。

吾人は兒童に運動會の諸事項を研究構成せしめた。即ち運動の内容を初め種目回数勝敗賞品等を研究せしめた時々彼等の頭の中に運動會運動技に對し一時的練習技が如何に強く浸入して居るかについて驚かざるを得んだ。彼等の頭の中には運動會には一時的觀客本位な餘興的な見地から演せられた事柄が行はるべきものとして強く印象せられて居たのである。

吾人の見解に於ては此の機會即ち運動會シーズンに於ては平常練習の効程に對し一層レコードを向上せしめる様に練習をなさしめ之れが向上を計るのが策の得たものであると思ふ。特に毎年運動會遊技として特種的限定的に定めて實施して居るのは賛同



し得ない。

## 二、運動會遊戯競技の組合せてある。

遊戯競技の組合せに對しても一定の主義方針を以てすべきものであると思ふ。即ち其の校が主張する運動種目を體驗要求によりて組合せをなすか乃至は其校兒童の要求と進歩發展の爲めに組合せをなさねばならぬ。其處に意義が見出されるのである。只だ流行的に可愛いからとて尋一から始めたり、五十回乃至六七十回をするが慣例として學年に配當し始めは観客も少ないからとて朝の中は面白くない物から初めんとて綱引を持つて來たり、三四時頃の観客の出盛りとして其處に最も人氣ありさうな物を配當したり、機械的に回數を定めて學年に配當し、何うしても何回せねばならぬと限定したりする。如何に其の客觀的にして観客の本位の組合せなるか、更に子供をして奴隸的取扱の態度に出て居るかに驚かざるを得ないのである。可愛い子供から始めると云ふ事は運動會の本位ではない。五十回乃至六七十回は何の標準に據つたのかあやし

まざるを得ない。

運動の總量を考へて居ない、學年發達即ち心身發育の程度を考へて之れが發展に運動量の發展係數を合せたものでない。綱引は決して面白いといふ事を標準にして定むべきものではない事は明かな事であると思ふ。勿論平常の運動發表にもあるのであるから観客も考へねばならぬが観客のみに主を置くの誤れるを思ふのである。一層教育的なる配合を要求して止まないものである。

## 三、賞品競争である。

吾人は賞品を目標として運動をする兒童、賞品がなければ運動會でない様に考へる教師による運動會には不満を持つものである。運動會といへば直ちに賞品の金高、賞品の出所、賞品の授與等に心を専念傾ける如きは運動會の本旨を忘却せるものである。吾人は賞品のために勝敗を争ふ如き子供を養成したくない。賞品は副次的の物であるといふ立場をあくまでも主張したのである。



#### 四、児童の體力考査の爲めの競争にしたい。

子供個々の體力考査を本位にしたい。一人でも子供に『あの人と走つては僕には勝てない。賞品も得られない。残念だ』。『此の組では僕が必らず勝てる。大丈夫だ』。といふ様な感を持たせる如き運動會はしたくない。各自競争心を持つて運動に参加せしめたいのである。

#### 五、簡単な準備、簡単な器具、平常使用の器具にしたい。

運動會とは莫大な仕掛をして莫大の金を無駄に使用するのだといふ感、運動會は大仕掛の費用倒れ也との感を起させたくない。會場準備、用具の準備に澤山の金と澤山の時間を使用するは吾人の欲せざる處である。

用具も至極簡單で運動會用として購入せぬ様、(或種類の道具は其學年のみに使用される(即ち之れは何年の何遊戯用として)、特に多くの費用と多くの手数を要した複雑なものを作る事は面白くない。可成多くの學年に利用せられる様にしたい。さなくば其

の時のみに、使用される様になるのである。その上複雑な器具はよくない。之れも其の場限りとなる恐れがある。而して一年に一度より使用せられずして、又來年の運動會迄物置倉庫の内に藏せられる如き事は餘りに教育的でない。

#### 六、御祭的余興的の遊戯競技はのぞきたい。

教育的條件に合致しないもの即ちお祭的、餘興的のものは運動種目に入れて堂々と繰返へしたくない。余は萬一をたのむ競争や、偶發的の成績を得やうとする點燈競争、パン食ひ競争や、柿食ひ競争、餘興的抽籤競走、お祭的仕度競争が教育上から見て運動會として如何なる價值あるやを疑ふ者である。

## 第二章 運動會の眞使命

### 一、教師の運動會より児童の運動會へ。

教師本位、教師中心の運動會より児童達の運動會にしたい。彼等の内的生命の欲求上



に立つたもので、彼等の心身の試練會、實演會等要求から生れたものにしたのである。教師の定めた運動會で教師の定めた目的で、其の目的から割出された種目、方法で限定せられた活動範圍に、観客本位の演技、あらゆる總べてが客觀的な一日の運動會は兒童から見たならば豫想外の結果を來たして居るに相違ない。

## 二、兒童の運動會。

吾人は運動會に對しかゝる意義を徹底せしめたい。即ち平素養ひたる體力氣力を自驗發表せしめて、其の力を自覺せしめる。そして益々自己體力氣力の練磨向上をなさしめる。

兒童運動會は兒童の構成によりて成立せしめたい。彼等の自治自發の活動に訴へて構案せしめたい。即ち、種目、演技は勿論のこと、豫算、會場設備、準備、役割の研究構案をなさしめたいのである。

## 三、運動會の新意義。

從來教師本位に考へられた運動會は全部が兒童中心となり客體視せられた物は主體視せられ主客顛倒して來たのである。其故にせしめるといふ考は全然書換へられて自己が『爲す』こと、を爲さしめる様即ち遺憾なく發揮せしめる様に指導乃至輔導する事が必要である。剛毅、堅實を尙び、快活の氣象を發揮せしめるといふのではなくて自己から發揮するにありて、規律の嚴正を重ずるとか、行動の敏活を期せしめるのではない。自己が期するのである。更らに自己が自己の體力の試練をしながら、協同一致を内心から欲求するに至るのである。更らに運動演技の選擇等も自覺的に自驗自表のために選擇するもので、之れが眞の兒童の要求であつて又本旨に合致すると思ふのである。

## 第三章 兒童運動會構成の實際

然らば運動の運動會は如何にして兒童に構成せしめるか。勿論指導も要する動機も



必要である。以下其の實際について述べる事とする。

### 第一項 第一年度運動會の構成

#### 1、資料の提供

兒童には幼稚ながらも相當に自治心自成心があるといふ事を體驗した。他動的他律的にのみ仕向けて居たのは間違ひであつたといふ感じが事實の上から見せられたのである。即ち兒童の自治心自成心に訴へて活動即ち有目的活動、自意的計畫的な活動により構案させたのであるが之れには參考の資料を要する。又相當助成のための輔導を要する。余は左記の指導要項によりて、研究すべく參考書、前例、を示して教師の態度を補説してやつた。

#### 1、運動會の目的

#### 2、種目選定標準

#### 3、演技内容

4、學級會議、代表者會議開會決定のこと

5、代表者會議にて決定すべき事項

運動會の要素、實演時間と種目決定數、運動の要領と採否、役割人員の決定、役割規定、豫算作製、

#### 2、第一回學級會議

兒童の要求しつゝある運動の種目、要領等を議せしめ成案として代表者會議に提案せしめた。吾人は此處にも教師本位の餘弊を痛切に感じたのである。學級にて第一に兒童の構成したものを參考のため掲げる。

#### 學級成案

尋一、ダルマ送り、破鈴、旗渡し、徒競走、旗と輪の交換

尋二、綱引、徒競争、トンネルボール、帽子取、リレーレース、

尋三、デットボール、綱引、徒競走、傳書鳩、マリツキ送り、飛行機破り、



尋四、リレーレース、擬戦。徒競走、飛越臺、マラソン、二人三脚、雨の降る日、生花競走、

尋五、徒競走、仕度競走、體操、擬戦、リレーレース、デットボール、

尋六、(男) 擬戦、騎馬戦、マスト倒し、

(女) 綱引、行進遊戯、タスキ取、二人三脚、  
(男女)リレーレース、徒競走、フットボール、

高男、ホップステップエンドジャンプ、キックボール、リレーレース、旗倒し、二人三脚、ハードルレース、徒競走、

高女、體操、行進遊戯二回、リレーレース、大演習、旅は道連れ夜は情け、スプー  
ンレース、

以上自己學級の結議を持つて、代表者は選定せられ研究協議をする事となつた。

### 3、第一回代表者會議

第一回代表者會議第一回代表者會議は充てられた會議室に開會せられ、傍聴席も設けられて、尋五以上各級からは數名宛の傍聴者があつた。代表者は各學級正副男女各一名宛で圓形座席に着して居た。注意すべきは代表者出席權なき尋三四からも傍聴者が男女二三名宛控えて居た事である。先づ座長の互選あり高男生當選して之れに當り記録係を一名指名し、各級にて決議した演技種目を提出して比較研究をした。

### 4、職員批評と輔導

兒童の研究せる成案を議題として職員會を開會し、之れが批評を試み左記事項を輔導し再研究をなさせる様代表者會議を開會せしむることとした。

イ、ボール使用技を採用せしむること、

大小何れのボールを使用するも可なることとした。之れは要するにボール使用技を發達的に行はせて見たいといふ考もあり、且つ器具の簡易なること、其他運動の教育的要求に合致することが多いといふのである。



ロ、リレーレースを各級に組入れること、

之れもやはり教育的要求に合致する點が多いといふ點から採用することとした。

ハ、標準走程の定め方について、

標準走程の意義及積極的消極的方面の定め方を説明し自覺を促がしたのである。そして研究をさせる事とした。

ニ、各運動の内容形式方面を發展的に定めること。

各學年別に運動を分類して其内容形式すべてを發展的に研究すべきを示した。

#### 5、第二回學級會議と代表者會議

教師の輔導事項に基き各學級は學級會議を開會し、其の意見を求め更らに第二回代表者會議を開會した。此の代表者會議の結果各學級の意見による運動の試演會を行ふこととなつた。

#### 6、試演會

各學級は自己學級の代表者を指導者とし教師を輔導者乃至顧問として試演習をした。其の結果は内容的に形式的に一部乃至全部を改めたり、創作技を摸作技としてり、摸作技を創作技に變へたりした。そして工夫研究の結果意見の確立を見た。

#### 7、第三回代表者會議（プログラム作製演技決定）

各學級の試演による演技過程及結果を議題とし研究し其の結果確定議とした。多数の傍聴者があつた。

番組に對し學校の要求乃至輔導をなし、印刷に廻送したのである。而して此の運動會の内容形式と構成に對する要領を發表する事とし教師側にて案を作製し發表したのである。

#### 8、第四回代表者會議（豫算作製會議）

保護者會より提供すべき百五拾圓を收入として豫算の作製研究會議を開會したのである。可成相當の意見も出て面白い結果を見た。それで一部訂正を加へて採用實行し



たのである。

### 9、第五回代表者會議（準備、會場、設備、役割）

#### 決議事項

イ、各係にて児童自ら準備すること。

ロ、會場には特別なる設備をなさぬこと、從來の如き費用を投せぬこと（細密事項省略）

### 10、各係別打合せ

児童を中心として教生及訓導參加して係別に打合せ會を開會す、呼出係、準備係、指揮係、審判係、記録係、相互監督係、衛生係、接待係の八係分團の會合をなした。児童は自分等を主體として、教生、訓導までの所屬を分別して豫定の配當をなし來つたのに驚いたのである。以上の順序を経て児童の運動會は構成せられ當日の運動會は實施せられたのである。

## 第二項 第二年次運動會の構成

### 1、研究問題の提出

全校児童に向つて左の研究問題を提出して再考研究をなさしめて、全學級の意見を集めしめる事とした。代表者の選定も任命し、代表者は其の意見を集めたるものを代表者會議へ提げて出席せしめた。

#### 研究問題

- (1) 本年は如何なる運動會を實行せんとするか。
- (2) 運動會の目的を完全に遂行する諸條件如何。
- (3) 代表者に委任すべき事項及各自研究すべき事項如何。
- (4) 各學年の種目及希望

児童は自己學級に於て相互的に個別的に之等問題を熱心に然かも眞面目に研究討議をした。而して一日も早く代表者會議の開かれん事を要求し來たり、早きは試演をな



すあり、各種競技のレコードの再調を願出づるものさへありて運動會の當日を待たず居た。

いよ／＼代表者の決定を見た。代表者會議は開會せられた。代表者は各學級に於ける個別的相互的研究事項を一括して會議に臨み各代表意見の交換あり、其の内容を概括して決議し記録して職員の輔導を受くべく提出した。其の要領は左の如きものであつた。

#### 研究問題の結論

(1) 自分達の平素練習せる實力の發表をなすにある。決してお祭的になすのではない。眞摯の態度で實行せん。

(2) (イ) 準備の簡單にして運動量の大きなるもの、(準備にのみ手数を多く要し、番組の進行も遅延するし、比較研究して運動量も小なるものとなる。又經費も多く要せぬ様にしたい。)

(ロ)、平素練習したる體育運動の總練習たること。(平素の練習を實行して自ら験したり、或は他の運動に應用して自分達の實力を驗して見ること)、

(ハ)、一時的餘興的のものは一切採らないこと、(昨年の運動種目は非常によかつた。他校の運動會に見る様な餘興的のものは除かう。)

(ニ)、各自心身の發達に合致する様に種目を配當すること、(一年は一年、二年は二年と順序學年を考へて、選擇配列をしやう。運動量も其の様にしやうと)

(ホ)、遊戯競技を主として體操を加味すること、(本年も遊戯競技を中心として實施し體操は二三の學級に止めて體操の一般を見せるに止めん。)

(ヘ)、個人運動に立脚して團體競技を多くすること、(團體競技が理想であるが其の根本はやつぱり個人にあるのだ、其れ故個人が自験し得る様な内容を、團體競技に組まん。)

前年の構案に於ては實に教育的と思はれる者が出て來た。之れは兒童の要求する心



理から来たものではない事は明瞭である。お祭的な一時的な運動會遊戯競技を羅列した處を見れば如何に兒童の頭の中を支配して居るかが明かである。

(3) 大體左記の様にまとまつた。即ち代表者に委任すべき事項としては、種目研究決定、役割、豫算、會場研究、プログラム作製、自己研究に待つべき事項としては、實演運動の内容、種目、代表者選擇等であつた。

(4) 各學年の種目決定(省略)

## 2、代表者及各級割の決定構成

各學級にて研究し代表者選定がいよく決定し會議をなす事となつた。會議は例の通り兒童會議室に於て開會せられた。第一に前項研究協議事項の發表研究決定あり。次いで種目を各學級より發表し相互意見の交換をなし、試演を實行することとなり閉會、各學級に於て試演せられたる後に代表者會議開會となり、代表者の種目選擇終はり、職員輔導を受くる事となり、職員會議開會批評し、一括して説明輔導をなし、更

らに代表者の研究會議を開會し研究結果を集めて決定したのである。

## 3、豫算會議

代表者會議は開會せられた。運動部長より支出すべき本年度運動會豫算金額を提出した。代表者より昨年の費途内容の説明を要求したれば説明す。いよく會議に移り議論百出遂に決定を見た。参考の爲め一部輔正したるもの(學校側の意見を入れての)を例示すれば左記の如くである。

## 4、會場研究

會場の研究會を開會す。前年の會場設計と比較研究して案を作製し意見を具して提出し教師の輔正を受く。

## 5、役割研究

各役割につきて意見を具して教師に提出し指導を受く、以上の過程を経て兒童の運動會は構成せられたのである。



## 運動會に關する豫算

豫算額 金百六拾圓也

### 内譯

一、準備金	四〇,〇〇〇圓
會場費	二〇,〇〇〇圓
設備費	一〇,〇〇〇圓
石灰	三,〇〇〇圓
砂	五,〇〇〇圓
其他	二,〇〇〇圓
用具費	二〇,〇〇〇圓
運動用具	一〇,〇〇〇圓
其他	一〇,〇〇〇圓

二、印刷費	一〇,〇〇〇圓
活版費	九,〇〇〇圓
封筒其他	一,〇〇〇圓
三、樂隊費	三〇,〇〇〇圓
四、接待費	一〇,〇〇〇圓
來賓茶菓費	八,〇〇〇圓
徽章其他	二,〇〇〇圓
五、賞品費	四〇,〇〇〇圓
(兒童一人ニ付十錢ノ割)	
六、雜費	三〇,〇〇〇圓

## 第四章 プログラム並に運動種目の内容的説明

前章にて述べたる方法により研究決定せられたる運動種目類別表を示せば次の如くなる。



運動會種目表 (第一年次)

種目類	競走	跳躍	ハンド	投擲	其他	團體	種目類
種目類	競走	跳躍	ハンド	投擲	其他	團體	種目類
第一尋	五〇米					ボール送リ	第一尋
第二尋	七五米					浦島太郎	第二尋
第三尋	一〇〇米	走り幅跳				ボール投	第三尋
第四尋	一五〇米					テッドボール	第四尋
第五尋	一七五米					ドリアン	第五尋
第六尋	二〇〇米	縄跳競走				平和ダン	第六尋
高男	二五〇米					爆弾	高男
高女	二〇〇米					異境の月	高女

運動種目類別表 (第二年次)

種目類	競走	跳躍	ハンド	投擲	其他	個人	種目類
種目類	競走	跳躍	ハンド	投擲	其他	個人	種目類
第一尋	五〇米					旗取り	第一尋
第二尋	七五米	ホップブレイ					第二尋
第三尋	一〇〇米					風車	第三尋
第四尋	一五〇米	一人一脚競走				(創作)	第四尋
第五尋	二〇〇米	走り幅跳				二人(男)	第五尋
第六尋	二〇〇米	縄跳競走				三人(女)	第六尋
高男	二五〇米					各男女	高男
高女	二〇〇米						高女

體搭 男、跳越壘、女體操 體操



**第八回體育獎勵會運動番組**

一	源平球入戦争	尋	一	二四	二〇〇米競走	尋	六
二	ボテトーレース	尋	二	一五	二〇〇米競走	高	女
三	走り幅跳	尋	三	一六	二五〇米競走	高	男
四	〇共さがし競走	尋	四	一七	擬戦	尋	三四
五	二人三脚	尋	五	一八	擬戦	尋	五六
六	百米繩跳競走	尋	六	一九	帽子取	高	一五
七	槍投	高	女	二〇	桃太郎	尋	一
八	ランニングホップステ ップエンドジャンプ	高	男	二一	浦島太郎	尋	二
九	子一ル渡	尋	一	二二	秋の光	尋	六女
一〇	追入ボール	尋	二	二三	お祝	高	女
一一	〇ホー ル投	尋	三	二四	〇爆弾	高	男
一二	アツド ボール	尋	四	二五	〇跳躍棒	尋	六
一三	一七五米競走	尋	五	二六	綱引	師	全

以上の運動種目を吾人の主張せんとする主義により配列せしめたる者が左記プログラムである。

各人	出演回数	特別競走	體	綱	擬	動作行進遊戯
5			圓陣リレー			三つの舟木山の葉
7			スリ リ レ レ 操	跳躍旗送り		電山雀大夫 (創作話)
7			スリ レ レ レ レ	男聯合跳附綱引		(女)聯合遊戯 むらすずめ (創作)
7			リス レ レ レ			(女)ドリブ ングリ レホ ール
8	レコード別	百米競走	體(男) 操	(女)だすき取り	(男)棒だをし	行進遊戯 秋のつど 白浪 (創作)
8			レリス レリス レリス			行進遊戯 行進遊戯
9			レリス レリス			
8			レリス レリス レリス	障害物	努力	行進遊戯 美しき天 然愉快



二七	リレイレース	尋三	四一	キックボール	高男
二八	リレイレース	尋四	二〇	傳書鳩	尋三
二九	リレイレース	尋五	四三	旗立競走	尋五
三〇	五〇米競走	尋一	四四	源平合戦	尋六男
三一	七五米競走	尋二	四五	異境の月	高女
三二	一〇〇米競走	尋三	四六	ハードルレース	高男
三三	一五〇米競走	尋四	四七	リレイレース	師選
三四	〇大原女	高女	四八	ドリブリングレイ	尋五
三三	砲丸投	高男	四九	〇蟲の樂隊	尋三四女
三六	體操	尋四男	五〇	〇笛と太鼓	尋二
三七	體操	尋五女	五一	〇汽車、獨樂	尋一
三八	體操	高女	五二	リレイレース	職員教生
三九	テッドボール	尋六	五三	リレイレース	尋六
四〇	ストライキングボール	高女	五四	リレイレース	高女

五五 リレイレース 高男

神奈川縣女子師範學校附屬小學校

御參考までに

この運動會は左の事項を指示して兒童に構案させたものであります。

運動會の目的、要素、時間、經費

各學級の兒童代表者はその意見を纏めて十數回會合して構案いたしましたそれを教師が輔導して出來上つたのであります。

この運動會は競技遊戯が主になつて居ります。そして種目回数は大體兒童の發達程度に相應して居ります。

徒競走は各級にあります、その組別は兒童各自が練習の結果自覺的に定めたレコードによつて作られて居ります。

標準走程は左の通りて兒童體力の現狀に立脚して發展的に定められて居ります。但



しリレイレースはこの二分の一と致します。

尋一 五〇米。 尋二 七五米。 尋三 一〇〇米。 尋四 一五〇米。 尋五 一七五米。  
尋六 二〇〇米。 高女 二〇〇米。 高男 二五〇米。

リレイレースは尋三以上。ボール使用技は各學級といふことになつて居ります。  
動作遊技は尋一、二に、動作的行進遊技は尋三、四に行進競技は尋五以上といふことになつて居ります。

尋三以上には各學級一つ以上兒童の考案を輔導したものがありません。番組の印の附いて居るのがそれでありませう。

團體競技は全校を紅白に分けて成績を争ふことになつて居ります。

プログラム調製に關しては大體同種類の運動を一纏めにして學年順に配列し其の發達を示すやうになつて居ります。

以上

第九回體育獎勵會運動番組

(第二年次)

一	バスケットボール	尋一	一四	リレイレース	尋二
二	ホタトリーレース	尋二	一五	リレイレース	尋三
三	追入ボール	尋三	一六	リレイレース	尋四
四	テットボール	尋四	一七	二人三脚	尋五
五	百五十米競走	尋五	一八	二人二脚	尋六
六	二百米競走	尋六	一九	木の葉、アヲテトコヤ	尋一
七	二百米競走	高女	二〇	山雀太夫(電話)	尋二
八	二百五十米競走	高男	二一	〇群	尋三四女
九	磚取	尋五六女	二二	美しき天然	高女
一〇	棒倒	尋五六男	二三	綱引	尋三四男
一一	努力	高女	二四	輪拔競争	尋六
一二	鐵彈投射	高男	二五	ホツプレース	尋二
一三	圓陣リレイレース	尋一	二六	走り幅跳	尋五男



二七	ローハードル(五十米)	高女	四一	走り高跳	高男
二八	槍投	高男	四二	體操	尋五男
二九	體操	尋二	四三	跳躍旗送り	尋二
三〇	ランニングホップステ ップエンドジャンプ	高男	四四	繩跳	尋五女
三一	旗取	尋一	四五	ハードル	尋六男
三二	風車	尋三	四六	ローハードル(百米)	高男
三三	〇學制頒布	尋四	四七	五十米競走	尋一
三四	ドリフリングリレー	尋五女	四八	七十五米競走	尋二
三五	アットボール	尋六女	四九	百米競走	尋三
三六	ヒシーズインクボール	尋五六男	五〇	百二十五米競走	尋四
三七	アットボール	高女	五一	百米競走	尋五女
三八	キックボール	高男	五二	〇秋のつどひ	尋五女
三九	二人三脚	尋三	五三	〇白波	尋六女
四〇	一人一脚	尋四	五四	愉快	高女

五五	ドリフリングリレー	教員教生	五八	障害物リレー	高女
五六	リレー	高五	五九	リレー	高男
五七	リレー	尋六			

御参考までに

この運動會は前年の運動會に引續いて内容及形式上に更らに一步を進め研究問題を課して兒童に構案させたものであります。

各學級の兒童代表者は其の意見を纏めて十數回會合して構案いたしましたそれを教師が輔導して出來上つたのであります。

この運動會は遊戯競技が主となつて居りますそして種目回数及運動量は大體兒童の發達程度に相應して居ります。

徒競走は各級にありますその組別は前年よりの各自が練習向上の結果自覺的に定められたレコードによつて作られて居ります。



標準走程は左の通りで児童體力の現狀に立脚して發展的に定められてあります。

尋一	五〇米	尋二	七五米	尋三	一〇〇米
尋四	一二五米	尋五	一五〇米	尋六	二〇〇米
高女	二〇〇米	高男	二五〇米		

跳躍及投擲等に於てもすべてレコードによつて組別して居ります。

リレーレース及びボール使用技も各學級といふことになつて居ります。

動作遊技は尋一、二動作的行進遊技は尋三、四に行進遊技は尋五以上と云ふことになつて居ります。

尋二以上には各學級一つ以上児童の考案を輔導したものがあります、番組の〇印の附いてあるのがそれであります。

個人及團體の競技は全校を紅白に分けて成績を争ふことになつて居ります。

プログラム調製に關しては大體同種類の運動を一纏として學年順に配列し其の發達

を示すやうになつて居ります。

以 上

#### 神奈川縣女子師範學校附屬小學校

1、本校児童體力の現狀に立脚して徒競走の標準走程を定めたのである。然かも其れは發展的にして児童が研究實驗の上に立つたものである。

2、前に述べた通り、遊戯競技を主とし體操を少し取つた。

3、各級徒競走に於ける組別的回数は児童の自己練習によつて自覺的に自定せる個別レコードに立脚して定めたのである。其故に一回の競走者人員といふ者は八名とか十名とか一定はして居ない。五名の組もあれば十名の組もあり、六名の組もある。之れこそ合理的な組別であると思ふ。即ちよく全力を傾注して競走の眞の愉快を味ふものである。

4、運動會當日實施の運動競技の總運動量を學年別に發達的に大體配分して、推考し



て見て其上に種目回数に考慮を加へた事も附加したい。

5、團體競技も紅白競技とし縦(各學級)、横(各學年)の聯絡統合を保たしめ競争をなさしめた。採點法乃至其の立脚點は審判規定につき參照せられたい。吾人は平素より紅白組に分類し卒業に至る迄競争を此の組分けによつてなさしめ團體競技を徹底せしめて居る。之れに對しては異論も澤山あると思ふが吾人の主張點は、團體競技其物が各個人體力、個人努力、個人實力の自驗發表の上に立脚しての團體精神の發揮にあるのであるから團體が理想の到達點となるべきものであると思ふ。吾人は紅白組別けが常に移動して列後に並ぶ兒童が競技の度毎に欠席兒の影響により紅白に移動し行くなど眞の競争精神を害すると思ふ。

6、團體競技の主張を擴大して聯合運動を採つた。

7、吾人の主張する通り一時的餘興的のものは一つも採つて居らない事に注意せられたい。

8、器具の簡單、平素使用具の使用、準備の容易等の主張より、徒競走を全學級に採りたり、リレーレースを尋三以上各級に、ボール使用技を全級に採つた様な次第である。

9、曲線運動の價値を相當に認めて動作遊戯を尋一、二に動作的行進遊戯を尋三、四に行進遊戯を尋五以上各級に採つた。

10、創作的活動を重んじ尋三以上に各學級一つ以上、兒童の考案を輔導したものを入してある。

11、運動の内容的種目を大體兩分して午前と午後に配列した。之れは參觀者に便のため午前一回午後一回吾人の主張を徹して發表したいといふ考であつた。何れの部分を見てもらつても其の主張が明瞭になる様にしたのである。

其故午前午後を通じて各技を採り、更らに其の配列に於ては同種目をまとめ、更に其れを學年の發達に依つて配列した。發展的に示して正當なる發表をなし正當なる



批評を得んとした。之れが運動準備も容易であつて各方面から便利で教育的であると思ふのである。

## 第五章 賞品問題

賞品は運動競技の目標とすべきものではない。演技の本質に立脚せしめて眞の自力の發表をなさしめたい。決して賞品が氣を釣る様な事をしたくない。運動會といへば莫大の經費を要する。其費途は大部分賞品である。金がなくて運動會が行へない等といふ聲を聞く事があるが氣の知れぬ話である。

又學校によると父兄保護者から澤山の金を集めたり寄限金を勧誘したり、學校に寄附金の芳名を張出して子供の心を通じて勧誘したりするなど、其の裏面には何うせ賞品として再び子供に加へるのだからよい等といふ様な事を聞く、又賞品を受授するに非常な手数が要する。そして混雜していやな外觀を與へたりする吾人は何とか其處に

革新する餘地はなきかとの念が常に往來して居たのである。

然し兒童の欲求を全然無視するも面白からず等の考から兒童が之れに對する態度を十分研究すべく深い興味と研究の資料を得べく代表者會議を開かせて見た。彼等は豫算の額にも相當に頭を悩ましたには相違ないが尋五以上の兒童は賞品には執着しない事は明かであつた。其の賞品とは従來行はれて居た賞品を指すのである。彼等は何か吾々の努力を盡した點を立派な方法で表彰する方法はないかとの議論や、又眞に個人的に平常よりの自力進展に努力した其の努力が當日表はれた者には努力賞を與へては如何とか、或は尋四以上には全然與へず尋一、二、三には彼等の要求するものを與へては如何など其々有力なる説が出た。其處で以上の諸意見を具して職員の指導を受ける事となり、其の決定は教師に一任して來た。以上兒童の研究した諸要點を參考として次の様に決定し實施したのである。

### 一、優勝徽章



個人競技に與へる事とした。即ち各競技のレコード別の分類による各組の優等者に與へたのである。其組の組織といふのはレコードの最も近い者を以て組織する處の者の一團中其の當日然かも其の競技の努力の表はれた表彰として與へたのである。之れは兒童の眞の欲求に合致して居るものと信ずる。實物は毛糸にて直徑五分の圓形なるものであつた。吾人の教育的態度からいへばレコード別の競技にても第一回と第二回と第三回、第四回と順次其の自練による自力表出からいへば其處に幾分の差等をつげるのが至當と信じて次の如くした。即ち

#### 優勝徽章

方法 決勝點に入りたる際等級の旗と取替へて與ふ。

種類と規定

- 一、赤色マーク（中に白色にて 一、二、三を表はす）
- 二、黄色マーク（中に白色にて 一、二、三を表はす）

- 三、青色マーク（中に白良にて 一、二、三を表はす）
  - 四、黒色マーク（中に白色にて 一、二、三を表はす）
- 第一回組の一、二、三等には赤色マークの一、二、三等を與へ、第二回組は黄色にて一、二、三等を與へ、第三回組には青色マークにて一、二、三等を與へ、第四回組は黒色マークのものを與ふる事とし、第五回以下はすべて黒色を使用したのである。

授與の方法も其の決勝點に於て審判者の決定にて其の場所にて直ちに與へる事とし賞品授與所に一々黙禮し混雜を來たしつゝ受けに行く煩を除き、兒童は之れを直ちに胸間に着けて自己の優勝を表はし、當日以後も兒童は登校に胸間に着けて平素の練習効果を物語りつゝあつた。黒よりは青、青よりは黄、黄よりは赤と心をレコードの進歩に努め、練習を始めた。以上の如くして其の豫期の効果を得たと思ふのである。

二、紅白賞



紅白探點を嚴密にした。團體競争には勿論のこと個人競争にも全部必らず探點し、其の通計をなし優等組の賞揚をなし其の賞の額面を屋内體操場に順次掲げてある。之れは勿論精神的の賞であつて、個人の集團たる團體の勝敗を表はすものである。其の方法は審判規定に明示してある。

### 三、努力賞

一般兒童の當日活動したる努力に對して一人十錢平均の努力賞を與へる事とした。其の旨を示げて各學級其の要求するものを協議申出でしめ其の努力を徹底せしめた。其の結果は次の様となつた。

#### 第一年次

- |    |                |    |          |
|----|----------------|----|----------|
| 尋一 | 菓子(個人的)玩具(共同的) | 尋二 | 畫用紙(個人的) |
| 尋三 | 唱歌集(個人的)       | 尋四 | 水入(個人的)  |
| 尋五 | 目錄(學用品棚)(共同的)  | 尋六 | 湯呑(個人的)  |

- |    |             |    |               |
|----|-------------|----|---------------|
| 高女 | ピンポン一式(共同的) | 高男 | 目錄(砲丸圓盤)(共同的) |
|----|-------------|----|---------------|

#### 第二年次

- |             |       |       |
|-------------|-------|-------|
| 尋一、尋二、尋三、尋四 | 萬年ノート | (個人的) |
|-------------|-------|-------|

- |    |       |       |
|----|-------|-------|
| 尋五 | 男 額 掾 | (共同的) |
|----|-------|-------|

- |    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 尋五 | 女 教室裝飾用額掾 | (共同的) |
|----|-----------|-------|

- |    |      |       |    |      |       |
|----|------|-------|----|------|-------|
| 尋六 | 教室時計 | (共同的) | 高女 | 辭典二冊 | (共同的) |
|----|------|-------|----|------|-------|

- |    |      |       |
|----|------|-------|
| 高男 | 槍 二本 | (共同的) |
|----|------|-------|

此の努力賞は運動終了後閉會の辭の前に校長より各級代表者に授與せられた。以上の如くして彼等に満足を與へたのであるが更らに吾人は尋一の共同用玩具を市内の玩具店へ選定購入のため、尋四兒童をやつた。處が兒童興味之最も強い、然かも共同的に使用し得る王投げ器を購入して來た。そして其の玩具の尋一兒童に適する者なることを説明した。吾々大人の經驗範圍よりは狭しとの考は裏切られて兒童直接の物に對



しては非常に廣い事を知つて驚いたのである。

各學級の賞品會議は吾人に非常の参考と興味とを與へたのである。尋一の如き菓子も欲しい。其他何かも欲しいといふ態度であり、尋二は圖畫に最も興味の乗つて居た時代であつたから一も二もなく畫用紙をと欲求決議された。尋三は本譜視唱法の初つた時で教師用の唱歌集を決議し、尋四は書方練習時の當番の配水にあきたらずして個人用水入れを要求したのである。尋五は平素自己教室の備品の不足を感じつゝあり、て其の欲求の表はれであり、高男女は運動の努力賞なれば運動の共同具にせんとの本質論的立場から決議したものである。尙は大正十一年度に於ては萬年ノートの流行時で萬年ノートと決定したり教室備品の不足から時計となり、辭書となり、額縁となつたのである。高男は相變らず運動中心であつた。

## 第六章 標準走程の研究

標準走程といふのは兒童が短距離走法を用ひてかけ得る範圍を云ふのである。一體走法には次の七種がある。即ち

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 1. Sprint               | 2. Long sprint      |
| 3. Long stride          | 4. Long wazy stride |
| 5. Long Diatance stride | 6. Tlo ting         |
| 7. Jumping step         |                     |

此の七種中のスプリント乃至ロングスプリントをいふのである。

文獻によれば諸說中一致する大體は左記の様である。要するに之の走程は限界として解せられるものである。即ち標準走程を定むるは、之れより以上走る範圍を越えない様にとの害のない様にといふ消極的意味となるのである。

文獻による走程

神奈川女師附屬の實際研究走程

四、五歳

三〇米以内

尋 一

五〇米



六 歳	五〇米前後	尋 二	七五米
七、八歳	一〇〇米前後	尋 三	一〇〇米
九、十歳	一五〇米前後	尋 四	一二五米
十一、十二歳	一八〇米前後	尋 五	一五〇米
十三、十四歳	二二〇米前後	尋 六	二〇〇米
十五、十六歳	二六〇米前後	高 女	二〇〇米
十七歳、十八歳	三〇〇米前後	高 男	二五〇米

一體兒童はレコードの進むに従つて距離を大にしたがるものである。結構な事ではあるが運動熱の勃興によりて其の限度を越し易い。越す時は弊害を起す者である。其故其れを限度とし其の範囲内にて走程を定める標準とするのである。

吾人の主張から云へば一般走程よりも各自の自己走程が理想であるべきで其の上に標準走程が必要である。一體ゲームは各人レコードの中間に於て行ふべきものである。理想を其儘とつて行ふものではない。其處に勵みも出る分けである。制度の順序

としては自己走程を兒童自身研究したる結果、其の中間にて劃定したる者が標準走程となるのである。即ち各自のロングスプリントの平均的走程であるのである。

## 第七章 豫算作製研究

吾人の主張から云へば多くの金を支出しないでもよい。即ち費用も少なくして比較的により大なる効率を上げんとするものである。勿論私の學校にも運動會費用は澤山ないが一體普通の小學校で行ふ運動會を見ても五十圓でも結構行へるし百圓でも出来るし五百圓でも、決して五倍十倍にも見えない様である。之れは素人眼には五倍十倍と支出金によつて其の美しさ加減が異なる様であるが、吾人から見れば其の外装よりも運動其物の本質に立入るからである。然し近頃父兄にも教育眼の發達した人も多くなつたから本質的見地に立つて批評鑑賞するに至つた様である。誠に結構である。

吾人が兒童の代表者會議に豫算研究會議を開かした事は前述の通りである。彼等



は前年の運動會の狀況と實地支費途を研究し更らに彼等としての理想と比較研究して大體の費目より次第に細目を作製討議して行つた。そして成案を見たのである。之れは彼等の目的實施の經濟的根底の體驗であつて最も價值あるものと思ふ。吾人は此の案に對し一部輔正をして實施したのである。

## 第八章 役割研究

役割に於ても代表者會議に於て協議せしめた處、なか／＼適當なる役割の研究をした。即ち兒童の運動會を實現するに最も適切なる幹部と其の實現進行に最も適する人物と人員とを攻究し適材を適所にあて嵌める様である。

教師側に於ては兒童の構成したる運動會であるから第一線の活動は兒童とするのは當然であつた。其の背後には教生訓導ありといふ事とした。役割も其の様に配當せしめたのである。

役割を分ちて運動會前の準備、當日の役割、終了後整理の役割といふ事にした。運動會前の準備役員のなすべき任務は、萬事圓滑に運轉し得るまでの準備をなし當日の役員に引繼ぐまでの準備をなす事とした。配當表を掲げると。

### 一、運動準備係

器具製作整理係

高等科女生全體、教生八名輔導、訓導一名顧問

會場設計構成係

高等科男生全部、尋六男全體、教生五名輔導、訓導一名

顧問

プログラム設計係

高等二年男二名

### 二、庶務係

案内狀、招待狀、賞品、記録係

尋六女生全體、教生五名輔導訓導一名、顧問

### 三、會計係

訓導一名



當日の役割は左記で、各係運動の滯滞する事のなき様共同一致して進行を計る事の打合をなし、共力的活動を誓ひて事にあたつた。児童もいざとなると眞剣になるものである。

- 一、總務係 児童一名 訓導一名
- 二、運動係 児童一名 訓導一名
- 呼出係 児童三名 教生一名
- 準備係 児童十名 教生二名
- 指揮係 児童四名 教生一名
- 審判係 児童五名 教生一名
- 賞品係 児童二名
- 三、庶務係 児童一名 訓導一名
- 記録係 児童二名 教生一名

相互監督係 児童八名

- 四、衛生係 児童三名 訓導一名
- 五、接待係 児童十二名 訓導一名 教生一名

次に児童の作製した當日の運動準備一覽表を参考のため載せる事とする。之れはプログラムの順序に合わせて作つてあり、準備係が所持して一見其の準備に迷はぬ様にしてある。一面此の表で見ても準備に多くの手数を要せぬ事が明かである。

運動準備一覽表 (第二年次)

番 號	運 動	學 年	準 備
一	バスケットボール	尋 一	バスケット二個、ボール紅白各六十個
二	ホテトリース	同 二	ボール十二個、紅白旗各二本
三	追入ボール	同 三	バスケット二個、ボール紅白各六十個
四	テットボール	同 四	ボール二個



二八	槍	投	同	男	槍、卷尺
二七	ハードル(五〇)	高	女	ハードル十六個、四人一組一人ニツキハードル四個	
二六	走り幅跳	同	五男	卷尺、石灰	
二五	ホツプレース	同	二		
二四	輪拔競争	六	輪十八個(三ヶ所ニ等分シ置ク)		
二三	綱引	尋三四男	綱紅白各四本(リーダー用)		
二二	美しくしき天然	高女			
二一	雀	同三四女			
二〇	山雀太夫電話	同二			
一九	木の葉、あわてとこや	同	一		
一八	人運び	同	六	旗六本、旗立器六個	
一七	二人三脚	同	五	布各兒童持參	

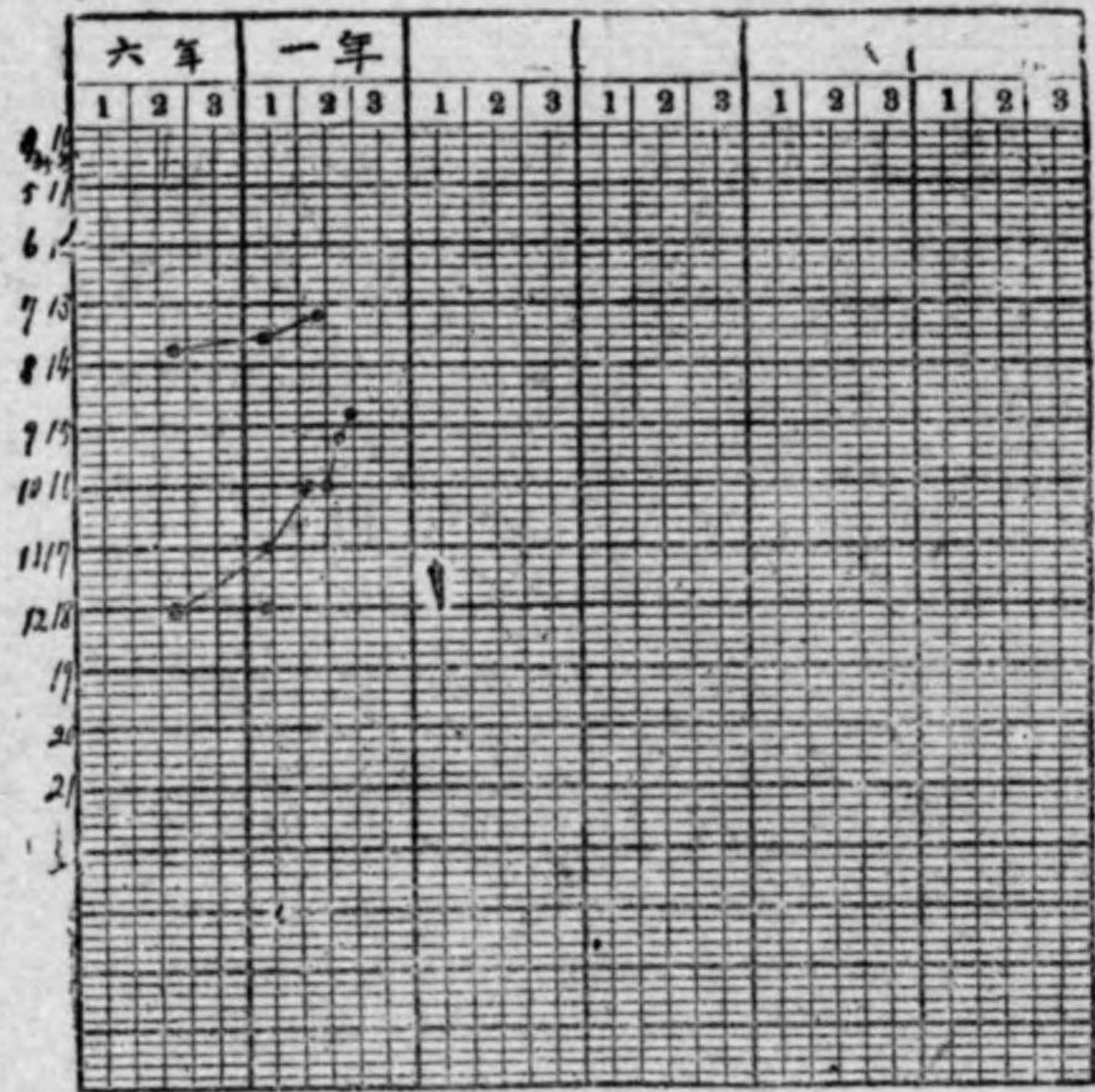
一六	同	同	四	同
一五	同	同	三	同
一四	リレーレース	同	二	バトン一本
一三	圓陣リレー	尋	一	ボール、紅白各一個
一二	鐵彈投射	高男		鐵彈、卷尺、石灰
一一	努力	高女		紅白旗各一本、旗立器二個
一〇	棒倒	同男		棒二本
九	礮取	尋五六女		礮各兒童持參
八	二百五十米競走	同男		
七	同	高女		
六	二百米競走	同	六	
五	五百五十米競走	同	五	



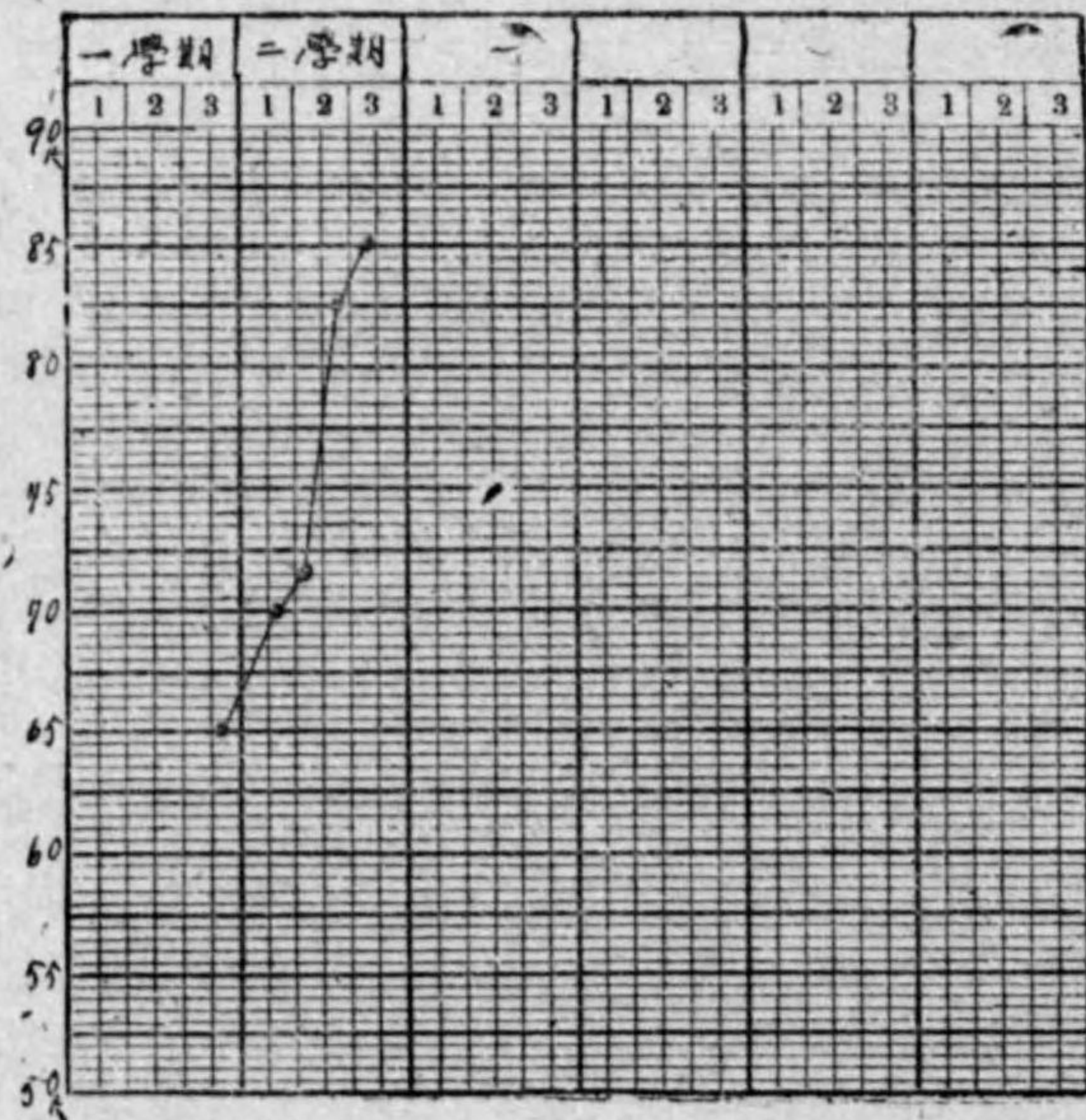
二九	體	操	尋	二	腰掛十二個(跳躍用)	
三〇	ランニングホップステ ツプエンドジャンプ	高	男	一	卷尺、石灰	
三一	旗	取	尋	一	紅白旗各六本、及旗器六個	
三二	風	車	同	三		
三三	學制頒布	同	四	四	紐長サ八米、手拭各兒童特參	
三四	ドリブリングリレー	同	五	女	ボール四個	
三五	隊列フットボール	同	六	女	ボール一個	
三六	ビシーズイングボール	尋	五	六	男	ボール四個、腰掛六個、紅白旗各一本、旗立一個
三七	テットボール	高	女	二	ボール二個	
三八	キツクボール	同	男	一	ボール一個	
三九	二人三脚	尋	三	三	手拭各兒童特參	
四〇	一人一脚	同	四	四	手拭各兒童特參	

四一	走り高跳	高	男	一	棒二本、スヘート、卷尺、石灰
四二	體操	尋	五	男	平均臺四、腰掛十二、跳越臺二
四三	跳躍旗送り	同	二	二	紅白旗各一本、脚掛十二個
四四	繩跳	同	五	男	麻繩長サ七尺二十本
四五	ハードル	同	六	男	一組五人、一人ニツキ四個、計二十個
四六	ロイハードル	高	男	一	一組五人、一人ニツキ五個、計二十五個
四七	五十米競争	尋	一	一	
四八	七十五米競争	同	二	二	
四九	百米競走	同	三	三	
五〇	百二十五米同	同	四	四	
五一	百米同	尋	五	六	高男女
五二	秋のつと、ひ	尋	五	女	





50m 100m 競走 高一 伊藤勇 100mは曲線コース



槍投 高一 高橋喜市郎

五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三
リレー リレー リース	障害物 リレー リース	リレー リレー リース	リレー リレー リース	ドリフ プリン グ リレー	愉 快	白 波
同	高	同	尋	職員 教生	高	尋
男	女	男	五	ホール 四個	女	六 女
バトン 四本	輪四 個、 バトン 四本	同	バトン 本			

### 第九章 各自レコード及レコード別組合

児童は本校入學時より卒業に至るまでの自分のレコードを記載するレコード表を所持して居る。そして自己のレコード發展に向つて自覺的に努力して居る。次ぎに各自が有するレコード表の一例を挿入することとする。











## 第十一章 設計及規定

右に會場圖を掲げる事とする。裏面に其の設計に對する態度を記載してある。尙當日の立體的設備の簡易なる事は挿入したる寫真について見られたい。

### トラック設計に關し

- 1 兩端に半圓を附したる楕圓に近きものにて一周100米
- 2 兩端の圓弧は半徑 $9$ 米とす、隨つて中心間の距離は $20.7756$ 米
- 3 幅は $9$ 米
- 4 トラックとフィールドとの境は石灰線を明瞭に引く、特に柵を設けず
- 5 リレーのゾーンは $10$ 米プロバーコースの幅 $3$ 尺
- 6 特別の競走のプロバーコース $3$ 尺

- 7  $9$ 米の直線コースを作る
- 8 出發點より第一角までの距離は $75$ 米競走 $125$ 米競走を除く以外は $35.8628$ 米あり。
- 9  $75$ 米、 $125$ 米競走に於ても尙 $10.3878$ 米あり。
- 9 最後の角より、決勝點迄は如何なる競走にても $35.8628$ 米以上あり。
- 10 決勝點は固定し出發點を移動す。
- 11 正面より成るべく太陽に照らされざる爲めコースは東西に長し。
- 12 決勝點附近は特にコースを廣くす。
- 13 決勝點より尙 $10$ 米以上の空地を存し、ダッシュをなすに充分力を出さしむるやうになす。

### フィールドの概況



- 1 幅18米長さ38.7756米、但し最も長さ所につゝ面積628.4304平方米。
- 2 跳躍場は幅3米長さ30米準備疾走路約20米
- 3 投擲圓として徑4尺の圓を作り、鐵彈投射に使用
- 4 兒童入口に近き直線は槍投の踏切線紅白對抗の場合の整列線、内部にてなす各種競技の出發點、決勝點等に使用
- 5 中央に徑10米の圓を設け、デットボール圓陣リレー等に使用其他遊戯等にて圓形をなす時の基準とす。
- 6 一邊10米の正方形のコートを作り、キックボール、ブレーグラウンドボール等に使用す。
- 7 前と同様のコートを其の左に作り、各種遊戯に使用
- 8 其他の線は各種遊戯の整列、出發決勝配列等に基準を與ふ。

## 第一節 個人競技の部

### 第一 競 走

#### 出發位置と合圖

- A
- 1、出發點に於ける位置は抽籤を以て定むるを原則とす。
  - 2、出發の合圖は發砲を以てす（但し學年により競技により他を用ふることあるべし。
  - 3、雷管不發の場合は出發の合圖とせず。
  - 4、不正の出發行はれたりと認めたる時はたとへ合圖の發砲後と雖尙一發の發砲後にて競走を中止せしむることあるべし。

B 過 失……………次の場合には出發を再びなさしむ  
合圖前の身體の何れの部分と雖も出發線前の地面に觸れたる時。



## 走路

走路の制限………特別のレース以外は Open course とす。特別の場合のコースは石灰を以て區劃す。

### 走路の變更

- 1 Open course の際他人を超走せんとする場合には二歩以上先んじたる時に限り内側の走路にうつることを得るものとす。
- 2 最後の曲を過ぎたる後は如何なることあるも現に各自の走れる走路を直走すべきものとす。

## 決勝

- 1 決勝線を競技者の胸又は腹部が横切りたる順序を以て勝敗の順序を定む。
- 2 判定の便宜上地上にテープを張る、このテープは走路に直角にして地表に平行なるべし。



- 3 競技者がテープに觸るゝには胸又は腹を以てし手を以て之を攫むことを得ず。

## 反則 次のごとは反則となし競走權を奪ふことあるべし。

- 1 他の競技者を超走せんとする目的にて他の競技者の身體に觸れたるとき。
- 2 他の競技者が超走せんとするに際して之を妨害する目的を以て肘腰等の體軀を以て其の進路を遮り又は遮らんとせし時。
- 3 他の競走者を超走し、又は超走を妨ぐる自的にて故意に斜行して進路を奪ひ又は奪はんとし妨げ又は妨げんとせし時。
- 4 走路を制限せられたる場合に他の走路を犯したる時。
- 5 走路の變更の規約に反せし場合。

## 二 跳 躍

### I 走り幅跳



- 1 準備疾走の距離には何等の制限を用ひず。
- 2、踏切は踏切線（フットボード）又は其の後方にてなすべし。踏切線を越へて踏切るときは一回の試技と算するも有効とせず。
- 3、競技者は三回の試技をなすことを得、而してそのうち最高の成績をとる。
- 4、ポークを二回續けてなしたるときは一回の試技と算す。踏切線の前方6呎踏切線に平行してポークラインを設く。
- 5、踏切線を越ゆるときは跳躍の如何を問はず一回の試技と算す。
- 6、計測 踏切線の外邊より身體の何れの部分を問はず地上に印せる最近點までの距離を以て跳躍距離とす。

## II 走 高 跳

- 1、立木より横（直角）に突出せる長さ3呎を越えざるピンの上に乗せたる横木を跳び越すべし。

- 2、準備疾走の距離には何等の制限を用ひず。
- 3、競技者は各の高さに於て三回試むることを得。
- 4、勝敗の順序は最高の成績を以て定む。
- 5、ポークに關する規定は走幅跳と同様但しポークラインは横木の直下の前方3呎の地表に横木と平行に引く。
- 6、跳躍するとせざるとに關せず横木を落せるときは一回の試技と算す。
- 7、計測、地上の踏切板の水平面より兩立木の中央に於ける横木の頂點に至る距離を以て高さとして定む。

## III

- ランニング、ポップ、ステツフ、エンド。ジャンプ走り幅跳に準ず。  
但し Hop, step, jump といふ順序を違へざること、同一跳躍を二回以上なさざるべし。

## IV

- ホツブレース



1、出發 決勝は競走に準ず。

但し出發の際『用意』(Ready)合圖にて片脚にて立つべし。

2、ホツプを連續すべく決して歩行疾走を加ふべからず。

3 反則等につきては競走に準ず。

#### V 一人一脚競争

1 出發 決勝は競走に準ず。

但し出發用意に一脚になるべし。

2 結びの解けし際は其の地點にて直すべし。

3 妨害行爲に關する規定競走に準ず。

#### VI 繩跳競走

1 出發 決勝は競走に準ず。

2 跳躍を續行すべし。

3 反側の場合は競走權を奪ふことあるべし、妨害行爲に關する規定は競走に準ず。

#### 第三 ハードル競走

1、出發決勝は競走に準ず。

2、所定の高さを有するハードルを所定の數だけ跳び越えざるべからず。

3、走路の制限 各自のコースを必ず守るべし。

4 次の場合には反則として競走權を奪ふことあるべし。

1° ハードルを二個以上倒したるとき。

2° 他人に故意に妨害を加へし時。

3° 走路の制限を守らざるとき。

4° ハードルを跳び越えずして其の横を走りたる時。

#### 第四 投擲



1、槍投（槍は金屬製の穂先ある木製を本體とす）。

a 踏切

1、槍は踏切線の手前にて投ぐべし。

但し片足又は兩足が踏切線を踏むことは許す。

2、槍の落下せざる前に足が踏切線を全く通過すべからず。

b 投げ方、握り方

1、左右何れの手にて投ぐるも可なり。

疾走するもせざるも亦可。

2、槍は把手の所を握るを要し、其他の握り方は之を禁す。」

c 無効 次の場合には有効ならざるも一回と算す。

1、踏切の規定に違反せるとき。

2、握り方の規定に反せし時。

3、槍の穂先以外の點が最初に落下せるとき。

4、所定の區劃外に出でたるとき。

5、動作中槍を落せるとき。

d 計測

1、槍の穂先が最初地に着きし點より踏切線又は其の延長まで直角に測りたるものを投擲距離とす。

2 三回の投擲を許し最高の成績をとる（都合により回數を減せしむることあるべし）

II 鐵彈投射

a 投射方法

1、直徑7尺の圓内にてなすべし。  
圓周上には上ることを許す。



- 2 隻手を以て肩より投じ肩後又は肩下に持ち行くべからず。
- 3 圓心に於て直交する直線に圍まれたる地上に投射すべし。
- b 無効次の場合は無効として計測をなさざるも一回と算す。

- 1 以上の投射規定に違反せるとき。
- 2 動作中鐵彈を手より離せるとき。
- 3 鐵彈を手にて持つ間に身體の何れの部分と雖も、圓外の地表に觸したるとき。
- 4 審判員が目標を置くに先ち圓外の地表に身體の何れの部分を問はず觸れたるとき。

c 計 測

- 1 各競技者には三回の投射を許す。  
但し都合により回数減することあるべし。

第五 其の他

I 旗送り競走(尋一)

- 2、三回の中最も良き成績をとる。
- 3、投射距離は彈痕の最近の點より、七尺圓周の内側迄の最短距離とす。

II 風車競走(尋三)

- 1、出發 決勝妨害に關し競走に準ず。  
但し二人して決勝線に入るべし。
- 2、途中分離すべからず。
- 3、必ず旋回を續行すべし。
- 4、違反の組は除名することあるべし。



### III 學制頒布（尋四）

- 1、出發 決勝妨害に關し競走に準ず。  
但し出發用意以前に目隠をなし置くべし。
- 2、 所定の地點迄は目隠を解くべからず。

### IV 輪拔競走（尋六）

- 1、出發 決勝妨害に關し競走に準ず。
- 2、 所定の數の輪を必ず抜けざるべからず。
- 3、 他人の抜くべき輪を使用すべからず。
- 4、 以上の規定に違反したる時は競走權を奪ふことあるべし。

### V 二人三脚

- 1、 出發 決勝妨害に關し競走に準ず。
- 2、 出發用意前に足を結びおくべし。

- 3、 競技中は足の結びを解くべからず。

解けたるときは其の地點に於て結び、競技を續行すべし。

## 第二節 團體競技

### 第一 ボール使用技

#### I バスケットボール（尋一）

- 1、開始終止は合圖をなし時間を定めて之を行ふ
- 2、勝敗の決はバスケットに入りし球の數の多少によつて定む。
- 3、己が組の使用すべからざるボールを入れし時は無効とす。
- 4 妨害行爲あるべからず。

#### II ポテトレース

- 1、出發は競走に準ずるも用意にて球を持つことを許す。



- 2、球を正しく所定の圓内に置くべく、所定の距離を走るべし。
- 3、圓内に置きし球を集めて持歸る任務に當りたる者は次の競技者に球を手渡すべく投げ渡し又は拾はしむべからず。
- 4、リレーは所定の線内にてなすべし。  
リレーの方法は次の競技者の手を打てば可なり。
- 5、他人の使用すべき圓に球を入れるべからず入れし時は再び改めて行はしむ。
- 6、最も早く完全にリレーし終りて最後の競技者が決勝線に達せる組を勝とす。

### III 退入ボール(尋三)

- 1、開始終止は合圖をなす。  
ゲームは一定の時間内に於て行はしむ。
- 2、籠を負へる者を捉へて入るべからず。

- 3、他人の球を奪ふべからず、又入るべき球を違ふべからず。
- 4、故意に他人を妨害すべからず。
- 5、2、3、4の規定に反せる時は入りし球は無効とす。
- 6、入るべき球違へて入れし時は無効とす。

### IV デットボール(尋四)

(圓内にある敵の騎手に球を投げ當つるゲームなり)

- 1、開始終止は合圖をなす。
- 2、騎手は自由に球を避くるを得れ其人馬は球を遮るを得ず。
- 3、球を投ぐるには圓外にてなすべし、圓内に入りてなす時は無効とす。
- 4、自己の組の騎手に當てし時は無効とす。
- 5、勝敗は早く對手の騎手に球を當てし事を以て定む。
- 6、勝負容易に決せざる時は審判長は引分を宣することあるべし。



V ビシースイングボール (尋五六男)

(相手の守れる旗に球を當て倒すゲームなり)

- 1、『用意』の令によつて各守備位置につくべし。
- 2、開始終止は合圖によるべし。
- 3、城としては旗を直径2米、4米の同心圓の中央に立つ。
- 4、次の行爲は反則として其の行爲をなしたる地點にて球を對手より後にすべし。
  - 1° ボールを持ちて走る時。
  - 2° ドリブルを二回以上續けたるとき。
  - 3° ボールを手渡したるとき (投げ渡さずして)
  - 4° 攻撃者が守備の圓内に入りたる時。
  - 5、大圓内にある守備者が小圓内に入りたる時は對手に圓心より10mの點にて

VI ドリブリングボール (尋五女)

フリースローを許す。

- 6、相手の旗に球を當て、倒したるとき一點を興ふ。
- 1、出發合圖以前にボールを働かすべからず。
- 2、ドリブリングを續行すべく決して手を用ふべからず。
- 3、リレーは必ず所定のゾーン内にてなすべし。
- 4、最後の競技者は確實に所定の圓内に球を入れるべし。
- 5、決勝、以上の規定に反せざる組にして最も早く所定の圓内に球を入れたる組を優勝せしむ。

VII 對列フロントボール

- 1、抽籤又は拳にて蹴り出すべき組を定む。
- 2、用意の合圖にて手を連ね攻撃する防禦の姿勢をとらしむ。



VIII

- 3、相手の列を超へ又は間を抜きて球を列後に蹴込みたる時一點と算す。
  - 4、規定の時間以内に得点多き組を勝とす。
  - 5、規定の時間内に勝負決せざる時は引合を宣することあるべし。
  - 6、競技者は審判員の命以外は列を離れ又は球を手にて觸るゝを得ず。  
キックボール（高男）
- 攻撃、防禦は抽籤乃至拳により定む、審判に關し抗議することを得ず。  
過失（次の場合は再びなさしむ）
- 1、Passline を球が越えざるうちに走者が走り始めし時。
  - 2、後方より走りてボールを蹴りし場合。
  - 3、Foulline 外に球を蹴り出せし場合。
  - 4、其の他蹴りそこなひし場合。
- アウト

- 1、蹴りし Edge-ball を空中にて捕へられし時最初の者より四人目迄の者が捕へし時。
  - 2、従つて五人目の時はセーフとす。
  - 3、守備側にボールが當りし時、バウンドが當りし時はセーフとす。
  - 4、キッカーオーダーを縫へし時 (Kickerorder)
  - 5、味方のキックせし球に當りし時。
- 反則

- 1、ボールを手にする時歩行又は走る時。
  - 2、同一人が秒以上球を持ちたる時
  - 3、ドリブルを2回以上續けたる時、
  - 4、四人以上渡して當てし時。(ドリブル一回は一人として算す)
- 反則場合は走者は當てられしと雖もセーフとし B 又は HB に生還せしむ。



計算及交代 (Change)

- 1、三人アウトとなりし時は交代す。
- 2、試合、回数は適當に定む原則としては五回七回又は九回。
- 3、生還者の多數の組を勝とす。

(注意) 攻撃者は足以外にてボールに觸れざる事。

IX  
デットボール (高女)

(一定の區劃内にある相手にボールを投げ當つるゲーム)  
アウト

- 1、相手に球を當てられし時。(バウンドは然らず)
  - 2、敵の球を捕へんとして失敗せし時。
  - 3、球を避けんとして區劃外に出でし時。
- 反則 (無効とす)

- 1、ボールを持ちて走れる時。
  - 2、所内の區劃内に入りて投げたる時。
- 計算
- 一定時間内生有者の多數の組を勝とす。

(附則)

一回の投球によりて二人以上をアウトとなすを得ず、従つて他人の身體より  
バウンドせし球に當るもセーフとす。

第二 擬 戦

I 棒たをし (尋五六男)

- 1、開始終止は合圍によつてなすべし。
- 2、早く相手の棒を倒せる組を勝とす。
- 3、他人に故意に妨害を加ふべからず。



II  
4、勝敗容易に決せざる時は審判員は引分を宣することあるべし。  
たすきとり

1、開始終止につき同前。

2、所定のマークを破られたる時は死とす。

3、一定の時間内に於ける生存者多き組を勝とす。

4、故意に他人の身體を打ち又は倒すべからず之を犯したる者は死とす。

III  
努 力

1、開始終止は合圖によるべし。

2、早く對手の旗を倒したる組を勝とす。

3、兩組共に綠紫黃に分ち、黃は綠に、綠は紫に、紫は黃に敵せざるものとす。

4、自己の敵せざる者に捉へられたるときは死とす。

5、同色の場合は戦はず。  
6、勝敗容易に決せざる時は審判員は引分を宣することあるべし。

### 第三 綱 引

#### I、跳付綱引(尋三四男)

1、開始、終止は合圖によるべし。

2、勝敗の決

1、一定の時間以内に四尺以上多く引ける組を勝とす。

2、所定の時間後壹尺以上多く引ける組を勝とす。

3、所定の時間到るも尙壹尺以上の差を生せざる時は、引分とすることあるべし。

### 第四 リレーレース

#### I リレーレース(ランニング)



- a 出發、妨害に關する規定は競走規則を適用す。
- b 決勝は競走に準ずるもバトンなき組は除名することあるべし。
- c 競技者
  - 同一競技者二回の出走は許さざるを原則とす。
  - 競技者は自己の組を應援する爲めコース内に入るべからず。
- d 走路の制限 (Keeping proper course)
  - 1、Relay zone 内に於ては他人のコースを犯すべからず。
  - 2、zone 以外は Open とす、course
  - 3、コースは外より次第に内へと變換するを原則とす。第一走者の位置は抽籤によりて定むるを原則とすること競走に同じ。
  - 4、Relay を終りたる競技者は自己のコースに立止り他に妨害なき様になすべし。

- e 受渡 (Relay) に付
  - 1、所定の區劃 (Zone) 内にて必ずなすべし。
  - 2、競走者は同組の競技者を助くる爲め區劃線外に出るを得ず。
  - 3、バトンは必ず手渡しすべく、此を投げ又は落して次の競技者に拾はしむるを得ず。

f 反 則  
以上の規定に違反したる時は其の組を除名することあるべし。

## II 圓陣リレー(尋一)

- 1、大體前規定に準據す。
- 2、特に Relay zone を設けず、コースの制限なし。
- 3、競技中球を落せる時には其の落せる點まで返りて走り始むべし。
- 4、最後の走者は審判員に球を渡すべし、近くリレーし終りたる組を勝とす。



III 跳躍旗送り

- 1、出發、決勝リレーの方法はリレーレースに準ず。
- 2、自己の跳ぶべき臺以外の臺を跳ぶべからず。
- 3、臺を跳び越えずして其の横を走るべからず。
- 4、反則せる時は再競技を命ず。

III 障害物リレーレース

特に所定の障害物を完全に越え來るべし、失敗せし時は再びなすべし。他はリレーレースに準ず。

第三節 紅白採點法

I 採點すべき種目

a 個人競技全部

b 體操、遊戲を省ける團體競技。

II 種目の採一點

a 個人競技

- 1、原則として入賞を1、2、3等とし3、2、1點を與ふ
- 2、競技者の人數により、1、2等となすことあり、其の際は3、2點とす。

b 團體競技

- 1、二組なる時は優勝組に3點を與ふるのみ。
- 2、リレーの如く四組以上の場合に1、2、3等迄とし、3、2、1點を與ふ

III 各組得點決定

- 1、個人團體双方全部勝ちし場合を滿點と考へ之を1000點とす。
- 2、この1000點を個人競技に800、團體競技に200と配分す。
- 3、各組の個人及團體競技の得點はこの與へられたる點を、競技にて得たる點の總計にて按分して定め、其の和をして組の得點とす。



運動會が結了したならば直ちに整理をする事が必要である。即ち各學級兒童の反省  
 批判及代表者會議による批判的研究會議、教師側に於ては批評的研究會による研究を  
 なし、更らに父兄又來賓の批評を蒐集し一括し置き來年の研究資料とする事は實際に  
 價值あり參考ともなり且つ其の年の會の經過に對しても形式上内容上大きな意義のあ  
 るものである。

### 第十二章 運動會後の整理

紅白採點表 (合せて記入實際例を示す)  
 (第二年次プログラム参照)

種目	回	入賞者又は組			紅白採點			
		一 等 勝組)	二 等	三 等	紅		白	
					一回採點	累計	一回採點	累計
1. バスケツトボール		白			0	0	3	3
2. ボテトレス		白	赤	白	2	2	4	7
3. 追入ボール		白			3	5	3	10
4. テツトボール		白					3	13
以體の實 上の記 團入例								
27. ローハードル	1	須賀白	桃井赤	中村白	2	184	4	172
	2	佐藤白	萩 赤	露木白	2	186	4	176
	3	横山赤	牧野白	小原赤	4	190	2	173
	4	山畠白	内山赤	小林赤	3	193	3	181
	5	竹澤白	森 赤	土屋白	2	195	4	185
	6	間宮赤	二宮白	神田赤	4	199	2	187
	7	竹田白	芹江赤	加藤白	2	201	4	191
28. 槍 投	1	高橋赤	松本白	伊藤白	3	204	3	194
	2	佐藤白	立入白	—			5	199
	3	丸山赤	橋本白	中西赤	4	208	2	201
以上個人の 記入實 際例								



## 第五編 兒童遠足會の構成論

### 第一章 從來行はれたる遠足の内容的意義觀

#### 第一節 從來解せられた内容的意義觀

遠足といへば體育方面の教育的價值の上に立つてやるのだといふ事は誰しも承知して居るが然し、實際としては其の體育方面よりも知育方面の事を多く考へ過ぎた感がある。且又從來は情意育の方面は閑却せられて居る様である。其故遠足と云ふと歩く事よりも、知育ばかりが注意せられて居た。之れは當局其人の考も誤つて居たのではないかと思ふ。即ち遠足として何か其處に知育に關する事項がなければ其校の校長の考の劣れるが如く考へられ易い事も原因して居たのではないかと思ふ。或縣或郡など認可願の形式に一々其の知育方面の記入を要求して居る處もあるとか聞いて居る。

又一面實際教育家の方にも知育に偏したり、情意育を忘却して居る事は明瞭な事である。

又當の兒童も目的を意識して遠足して居ない様である。教師の命に従つて其の通りに實行せんとし、何等興味を持たず勞せられた心身を引づられて行くのみであつたり面白半分に話したり、笑つたり、ふざけたりして過すのみに終つたり、教師の計畫は計畫のみに終つて兒童の實際とは懸離れたものとなり、兒童は意識的に遠足せずして、自己目的のない遠足となるのである。

要するに遠足の内容的價值が正當でないのである。内容的價值觀の相違は自然其の實現せられつゝある實際的方法の上に相違を生ずるものなる事は當然の事である。すべて教育上の仕事は教育本質上の位置觀乃至價值觀の相違によつて能率の高下となり不徹底の因となるものである。從來行はれた遠足が即ち其の埒外に出ないのである。

#### 第二節 遠足と校外教授



本来の目的から考察すれば遠足と校外教授とは全然區別すべきものであると思ふ。校外教授とは廣義に解して小學校教科の學習事項中校外に於て直觀させ經驗させ得べき場所に行かじめ、事實實物を感じに直觀經驗させて直接的に明瞭正確なる知識を與へ正しく美しき感情を得せしめ、且つ正しく強き意思の活動を陶冶する目的で實施するものである。

直接的方法による知識の學習即ち事實實物に關する知識の習得乃至感情意思の生起といふ事の必要なるは理科、地歴だけではない。修身、讀方、綴方、算術、圖畫、手工等の各科にも必要である。従つて校外教授の教育的の目的價值を内容的に見る時は知育方面、情育方面、意思方面體育方面の四方面が存するのである。

一方遠足に於ても此の四要素即ち體育方面、知育方面、情育方面、意育方面の四陶冶が存する。即ち共通的連關的の要素が存するのである。然し兩者自ら異なる内容的特質を有するもので目的價值に主副を有する。即ち校外教授は知育方面を

主とするに對し遠足は體育方面を主とし知育方面は副となる處に相違があるのである。

### 第三節 遠足と修學旅行

遠足の内容方面に體、知、情、意の四育を有する事は前述の通りであるが、修業旅行の價值内容にも同様に知、情、意、體の四育方面を包含して居るのである。即ち各教科に於て學習したる事項又は之れより學習せんとする事項の事實實物につきての知識を收得せしめ、充實せる學習生活をなさしめる。算術科に屬する物では實測目測により知識の正確を期し、地理科に屬するものとしては地理的事實の直觀と地理的理法の實際的研究をなさしめ、自然と人生との實際的交渉を明瞭にし、歴史科に屬するものでは史實を見學推究し愛國的思念の養成に資し、理科に於ては自然と文化とを研鑽し知識の充實と形式方面の觀察力注意力思考力の練磨をなす知的方面と、旅行によつて教師と兒童生徒間乃至は生徒兒童間に於ける溫情的の深刻なる交誼と薰陶が出来る



ことは非常なもので重大なる價值がある。自然の美、人工の美に接して眞の美感を養ふ即ち偉人の銅像、繪畫、彫刻等の美術工藝品による感情の養成は存在的制限を離れて眞相に接觸し得るものである。

世人は後者による感情陶冶を修學旅行特有の生命の様に考へるが、勿論之れも特有には相違ないが、前者の價值の之れに劣らざる事、之れこそ修學旅行の純粹にして他に得られざる特有の情育價值なるを等閑に附せられて來た感がある。

意育方面に於ては形式陶冶の上に大なる價值が存するのである。即ち第一研究態度の訓練をなすによい。研究心の實行となるのである。第二には自治的態度の訓練となる。研究物の整理行動の自治的遂行による。第三には勤勞的着實態度の養成訓練となる目的實現の結果其の精神の馴致せられるものである。

體育方面に於ては新鮮なる郊外に於て空氣の呼吸による利益、日光浴による運動の昂進等身體の健康増進は身體的價值が大である。

而して修學旅行の教育的立場は此の四内容的價值中に於て知育を主として考へ、他の三育は副と考へるのが正當である。然し從來情意育は副の副として考へられて居た様な感がある。實際も其の様であつた。それで近來此の二方面が高潮せられて來た事は非常に結構な事であると思ふ。

## 第二章 都市教育に於ける遠足の地位

全國九十を算する都市特に大都市に於ける現在は體育方面に餘程注目せられ體育向上熱は向上し實現せられつゝある。即ち歐洲戰後國民教育改造の一要素として各市體操視學體操囑托體操指導員として専門指導者を聘し、日夜直接乃至間接に指導に努め一面爲政者の小學校體育と國民體育との連絡進歩に努めんとするありて連關的効果として社會體育なるものゝ覺醒よりして學校體育に對する父兄の自覺により共同的努力向上を計りつゝあるなど、又各種團體、新聞社等の後援又は直接開催による少年野球



少年庭球、少年柔道、少年擊劍さては水泳、登山、マラソン等實現せられつゝあるは誠に喜ぶべき事である。

然しながら其の内容に立入りて詳細に調査し質的に量的に一般の振興を計らんとするには尙多くの欠陥を有する環境中に少市民即ち兒童がある事は明かな事である。

### 第一節 身體的方面

新鮮なる空氣を得る事は出來ない。炭酸瓦斯と塵埃と黒煙に汚されて居る空氣に包擁せられて生活を續づけ、天與の日光にさへ十分の惠澤に浴し得ない兒童さへあるを思はゞ、身の毛もよだつ感がする。室内の設備に至りては特に然りである。其の室内を以て兒童最上の安全地帯として容れられるが如き誠に寒心に堪えない次第である。

彼等兒童が十分に運動をなす可き運動場に於てすら尙ほ且頗る狹隘にして運動をなすに頗る困難を感じ、日除けの鐵柱、木柱は常置せられて自由活動は防げられ、運動場の周圍は不動なる人家建ち密にして擴張乃至改善は困難にして其の運動場には空氣

の流通悪しく、日光の射入不十分にして塵埃煤煙の多きを見るのである。次に横濱市小學校の屋外體操場の現況はよく其の窮狀を示すものと思ふ。之れは横濱市一市の問題ではないのである。

### 横濱市小學校屋外體操場の状態

(大正十一年八月十五日調)

學校名	屋外體操場坪數	兒童數二部教授 ハ二部ヲ除ク	兒童一人ニ對ス ル體操場坪數
榎 濱	九六四	一、二二八	七八
老 松	四九六	九六七	五一
第一南吉田	六四九	一、五七五	四一
第二南吉田	四三八	一、六〇六	二七
第一日枝	七八二	一、二六九	六一
南 太 田	六〇〇	一、二二四	四九
平 樂	七八〇	一、二〇三	六四
江 香 田	六〇〇	八一五	七三







岡野	五四〇	一、二三四	四三
平均	六一四	一、二八八	五七

横濱市太田小學校では學校體操の缺陷として、法令による體操時間の一週三時間とあるが之れは屋内體操場の設備ある小學校で始めて實際として行はれるものであつて設備の不完全な小學校では完全に此の規定時間を実施し得ないとの立場で次ぎの様な五ヶ年に互つて雨天日数の調査をして發表した。

自大正六年四月  
至大正十年四月 雨天日数調査表

年度	月次												合計
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	
六	七	六	七	二		一五	八	三	〇	一	三	七	五九
七	七	四	六	〇		八	一二	四	五	四	六	三	六二
八	三	八	一一	七		一〇	八	一〇	三	一	六	一〇	七七

彼等兒童は唯一の樂園たるべき家庭に歸へりても十分の生活を充すべき適所を得ない。疊敷の少ない場所に多數の家庭人の生活する其の内情に至りては驚くに堪えない。彼等は往來頻繁なる道路又は狹隘なる道路に遊戯をして遊ぶ事となり其の結果は電車、自轉車、荷車の音響による精神上の大影響を受けるのみならず、身體上の障害も受けるなどありて大なる苦痛の中に生活して居るのである。

第二節 精神的方面

機械の響、鐵槌の音は不斷に彼等の鼓膜を打ち安靜黙視を許さず。不斷の通行をなす電車、自動車、自轉車、通行人は彼等に自由の活動をなさしめず。落付、底力、忍耐力の自成を害し、輕舉盲動の動機を興へ、人口増加は物質的精神的に生存競走を益々大ならしめ、其の境遇の色彩反映として打算的乃至物質的となり、天與の自然性は



次第に破ぶられ精神的に缺陷兒を作るに至るのである。

### 第三節 野外の價值

草木によつて純化せられたる空氣に充滿せられ其の間花咲き鳥歌ひ四時折々に變化して野山至る處靜止して動かざる自然の中に展開せる山あり、谷あり、水あり、瀧あり、岩あり、石ありて美景を發揮し自然の成長は人間の進歩發展を促して居る。此の大自然の中に接觸する時如何なる影響實蹟を受けるであらうか。

前述せる兒童の精神乃至身體兩面に於ける惡影響は純化せられる即ち花卉、草木、水流は身心を樂ましめ心の遊戯場となり、自然の靜止不動乃至美景は人に忍耐心、活力動機、沈着力を與へて汚れたる精神を美化し、自然界の拔涉による自然運動即ち平坦、山坂、丘陵。河海の歩歩は大都市兒童の體育上特に缺陷とする體格の一般的薄弱と下肢の纖弱に不知不識の間に其の効を表はして健康體に進め、自然を作る山川、河海並に動植礦物は研究資料となり、研究精神の涵養となるものである。

## 第三章 遠足革新論

### 第一節 舊きを貫く諸相

#### 一、誤られし着眼點

吾人も遠足に就ては内容的に體育方面を主とし、副として知育方面、情育方面、意育方面を眼目として行ふ事には至極賛成であつて必らずしかせねばならぬと思ふのである。其の内容に立入つて考へて見たい。即ち其の歴史的に貫く形式と精神を考察するもあながち徒勞に歸しもしまいと思ふ。

從來實施せられて居る學校に於ける身體方面の鍛鍊的陶冶としては澤山ある。即ち正課の體操遊戯競技さては修學旅行、校外教授あり、課外の水泳、柔道、劍道、木劍、長刀、冷水浴、冷水摩擦、凝念、靜座、早起會等舉げ來たれば仲々多數に上るのである。然し其等の身體鍛鍊陶冶以外の陶冶としては遠足は有力なる地位を占むるも



のである。然り餘り娛樂的物見遊山的に終つたり、知識の修養に終つたりするは本質から遠ざかつて居るのである。一方文明の進歩に逆比して國力體力乃至體質の低下を慮ひ之れが進展を計らんとして最も簡易にして行ひ易く經驗し易き歩脚力によつてせんとするは最も良い方法である。

精神方面に於ては兒童精神に向つて自然美を移入し清新の氣を提供し、人工の美感を感興する而して精神の保養乃至は元氣の作興に力めねばならぬ。然るに知育に偏して自然に與へられ得るものを受けずして終るは實に残念である。

品性陶冶上にも最良の好機會である。即ち一日の交友は感情理解の生活となり、一日の自然界は意志的生活の自然陶冶となる事が非常に大である。余は此等を無意識的に觀過する事を残念に思ふのである。知育の陶冶の手段も注入に終つてはならぬ。教師の與ふる材料を教師の手によつて注文せられる如き、之れ生きたる實地實物を無視し生きたる教育を忘れたるものである。

## 二、兒童自身の無目的活動ではないか。

従來の遠足は兒童が目的を意識認容して居ないと思ふ。何月何日に遠足をするのだといふと例の遠足かと思つて非常に歡喜して其れからは課業には少しも手が附かない即ち靜かに落付いて學習をしない。服装がら携帯の菓子果物等の心配をする。丁度娛樂的、物見遊山の方に解せられて傳統的に頭の中に深刻に注入せられて居るのである。

教師は遠足を餘り喜ばない。之れ無目的の活動をなす兒童、娛樂的遊山的に活動する兒童の指導に骨が折れるといふ事や知育に偏する學校長の下に働く教師は其の受賣の材料調査や印刷準備に骨の折れる事を以てである。其が因となつて兒童を無目的たらしめる。

目的方面即ち如何にして身體の鍛鍊をなすか、如何にして知識の修養をなすか、如何にして精神の陶冶をなすかの意識の發露的活動ならば兒童の喜びの内容が違ふ。態



度も眞剣になつて平常學習の延長となるわけである。教師も平常の學習となつて愉快に行はれるものである。

### 三、動機の誘發が不純ではないか。

以上述べたる事でも明瞭な事であるが遠足の動機が眞純でない。即ち兒童生徒の傳統的なる自己の好む食品を携帶して自由に委せて飲食するといふ事、女生では着物等の外装に眼をくれたりすること。尙一日の清遊により精神的方面の收穫を得んとの一部分の目的の方便物を目的視する點などもある。教師の方では遠足の本質から出發して動機を起したものでない。故に缺陷も大である。

### 四、統一的單位的の作業でないか。

各教科の上から統一的に研究指導しない。主たる體育方面に於ても尋常一年から高等科まで系統的でない。其故一回々々の單位と學年と六ヶ年なり八ヶ年なりの單位的の完結はない。

### 五、漸進的發展的でない。

其一日の經驗乃至研究に對し批判といふ事はしない。勝手な印象、體驗の批判歸一をしてやらない。結果の批判によつて満足を感じ、更らに體位の向上乃至學習の進展をなさしめる事はしない。此點に欠點がありはしないか學習の經驗であり單位的の研究であると見る吾人は自己體格乃至體質の試鍊と向上となし、日常學習によつて得た既有知識の應用となり、新知識の確得となり、自然と人の生活に觸接して眞感情の陶冶と意志の試鍊をなし、次第に繼續的發展的作業として課すべきに此點か、欠缺がありはしないかと思ふ。

### 六、計畫立案による系統的組織と實行完遂の意志的行動より見て缺點がある。

目的が確立して居ない事と因果的に關係して計畫を立て、系統的に組立てられたものでない爲目的が兒童に明確でないのは當然で、教師乃至學校に於てさへ確立して居ない事さへ聞いた事がある。又あつても文字の上のみあつて其の遠足の内容に形式



に表はれて居ない。

其の結果は自然的に實行して其の目的計畫を完全に實行する意志的行動に訴へない。其故に無茶苦茶に其事が終はりかくして學校といふ者が繰返へされて行き、疑問も抱かずに隨性的に春秋に行はれ、多額の金は費消せられ結果の極小にして能率の擧らざる教育が行はれて居るのである。

#### 七、思考作用の件はぬ強行遠足。

實行と知識とは一致さすべきものである。即ち實行のために必要な知識の牧得のために實行をするものであると思ふ。

強行遠足といへば身體の方面のみを考へたり、意志方面のみを考へたりするは物足りない感がする。反射的活動の様な強行遠足は面白くない。強行遠足を實施せんとするにも其の實施中も實施後も思考作用を働かせて思考の發動によるものでなければならぬ。思考作用の動因による身體陶冶でなければならぬ。

#### 八、環境の導入と利用を忘れては居ないか。

學校教育と社會生活と兒童生活とは相即的のもので其儘教育の機會である。此の意味から遠足による自然と人文との上から環境の導入と利用を忘れられて居りはしないか。生きた問題を捉へて、即ち身體方面に精神方面に於て感得することが直ちに教育でめる。生活であるとの意識的利用がないと思ふのである。

#### 第二節 革新すべき諸相

プロジェクトメソッドは行動と思考活動の聯關的教育を主張して居る。尤も思考活動を説く學者も存するが多くの場合は兩者の聯關を説くものである。遠足も内容上に於て形式上に於て身體的方面の聯關的教育である。

プロジェクト法の包括的であり永續的であり、渾一的であり發展的であり、自然的であり、人格的であり、合理的であり、社會的であり、行動的であり、意識的であり、目的活動である様に遠足の内容も、包括的、永續的、自然的、渾一的、發展的、自然



的、人格的、合理的、社會的、行動的、意識的、目的活動的であらねばならぬ。之等の目標にはづれたる遠足内容形式による遠足はプロジェクト法によりて始めて其の本質を實現し得ると思ふ。以下順次其の革新す可き諸相につきて述べたいと思ふ。

### 一、有目的活動たらしめよ。

遠足の目的が必らず自意的たるを要する。即ち自己の意志によつて決定せられ計畫せられ實行せられねばならぬ。即ち問題法に依つて其の學校の遠足系統案を作製せしめたり、或は其の案による實行案を研究作製せしめたり、更らに其の遠足の身體的方面の情意の精神方面の仕事を各自に乃至全體に乃至は代表者に研究報告せしめて其の案による實地行動たらしめる事が必要である。

其時に於て始めて目的行動となるので物見遊山に終はる様な事はない。例へ娛樂的になすとしても其れは目的から出た自由の娛樂であるので希望の發現であるから價值が其處に生ずるのである。

身體的方面に於て強行的に鍛鍊的に消極的靜養に、積極的健康増進に體育尊重の主意に合致するものである。精神的方面に於ても自然より受ける美的感情の享樂乃至移入により意的行動の目的實現となり、目的による經驗の體得となり、價值の發揮せられるものである。

### 二、誘導的漸進的發展たらしめよ。

遠足をして目的活動の實現によつて兒童に活動進展を意識せしめたい。即ち既有的學習經驗を利用して更らに活知識、活經驗によつて兒童を進歩せしめたい。

目的の遠足の活動其れ自身が誘導的に動向となり、身體的精神的傾向が作られ遠足が生活化、教育化されて行く様に導くべきである。それでこそ満足感も充實せられて、兒童は遠足を其の日に終はる一日の仕事とせず、歩脚力の向上を計り研究追求の態度の振起推理思考力の進養感情圓滿性の持續をはかる等、教育の漸進をはかることが大切である。



### 三、計畫の組成により實行完遂の意志的行動をなさしめよ。

體育的方面に於ける彼等の消極的方面、積極的方面の實行案や、知育方面の研究事項等を計畫せしめる。そうして遠足案なるものが組成せられるのである。

其の目的計畫は中途に於て不徹底の終りを告げる様であつてはならぬ。當日最後までなし遂げられるは勿論のこと、遠足後も批判整理せられて全力傾注の結果を得る様にせねばならぬ。お祭騒ぎの乃至は大騒ぎの年中行事にしてはならぬと思ふ。

### 四、意識的鍛練たれ

遠足の本質として鍛練的なることは重要な位置を占むるものである事は前述の通りである。人類の文化進展は停止する處を知らず、人智の進歩には限界はない。然し身體的方面に於ては之れに逆比例して次第に消極的に退歩しつゝ、ある事は各種の統計が示す處である。

文明利器の進歩普及は人類の肉體を勞働せしめず、殊に歩脚力の低下を一層ならし

める。體育運動中の多種多様なる中に於て最も簡易にして誰れしもが實行し得るものにして其の功率の上がる理想的の運動は、徒歩練習である。平常の徒歩練習は勿論遠足によつて歩脚力の増進を計ることの至當なるは言をまたない。

然し努力忍耐的鍛練も無意識的なる努力鍛練は吾人の望む處ではない。其の効果乃至効率増進の自己レコード自覺練習鍛練を吾人は理想とするものである。自己レコードの向上努力に於て動機誘發に純なることを唱へたのも意識的にせよとの立脚地に立つものである。

## 第四章 兒童遠足會の實際

吾人の遠足に對する態度は以上の數章に於て述べた通りであるが實際に就いて最近のものを述べる事とする。

### 第一節 五月遠足會の構成



遠足と修學旅行とは内容的の差により其の實施を區別すべきを述べた。それで遠足實施について左の問題を與へて研究せしめ其の研究の輔導によつて實施したのである。

#### 研究問題提出

- 1、身體鍛鍊の方面を主とし學科的研究を副とする遠足の案を研究せよ。
- 2、尋常一年より高等二年までの兒童が遠足の道程を變へて然かも最後に一ヶ所に集合し、全校兒童にて愉快に遊び得る様な學級別の行動と全校的行動をなし得る様に組織せよ。

#### 代表者研究決議

- 1、遠足地を横濱市本牧三溪園とす。
- 2、各學年相當の歩脚力に應じて往又は復或は往復の一部乃至全部徒歩すること。
- 3、出發時刻は學を別とし三溪園集合時を午前十一時とすること。

- 4、晝食後は全校兒童にて共同擬戦及共同遊技(城攻め)をなすこと。
  - 5、往復の途中に於て相當學年の算術、地歴、圖畫等の研究をなすこと。
  - 6、歸校時及散開は各級の豫定行動とすること。
- 學級研究及教師の實地研究と輔導。

以上六ヶ條により、學級研究をなす事となり、各學級相當の研究をなし輔導により大體左記の案を得た。此の間教師も兒童の力にのみ委せず自身が實地研究をなす必要がある。それでなければ眞の輔導は出來ないのである。

兒童は遠足先の事や道路等について参考書地圖等によつて研究をしたり地圖を描たりして、如何にして有意義に一日を過ごさんかと努力的活動を盛んになすものである。







項	目的地ニ於ケル行動事	途中休憩地	途中研究事項	豫定順路	携帶用品	集合校時	要綱	
							學年	午前八時
山遊	遊			(往)東海(二里) 復(復)京濱(二里) 電車	水筒 辨當 裝	午後二時	尋一	尋一
同	同上	五ヶ所	浦島山生 麥英人墓	(往)同上(二里) 復(復)生麥(二里) 電車	同上	同上	尋二	尋二
同	同上	五ヶ所	生麥英人墓 浦島山	(往)同上(二里) 復(復)同上(二里)	同上	午後三時	尋三	尋三
同	同上	六ヶ所	同上	(往)道路(復)徒歩(四里)	同上	午後三時	尋四	尋四
同	同上	同上	浦島山 豐顯寺	(往)迂回(復)徒歩(五里)	同上	同上	尋五	尋五
同	同上	同上	同上	(往)同上(復)同上(五里)	同上	同上	尋六	尋六
同	同上	同上	同上	(往)同上(復)同上(六里)	同上	同上	高女	高女
同	同上	同上	植物採集地歴研究	(往)同上(復)同上(七里)	同上	同上	高男	高男

### 第三節 教師の研究

#### 一、遠足の標準距離及考慮事項

運動會に標準路程の研究が必要の如く遠足にも標準距離の研究が必要である。學理上の研究と實地經驗とによつて其校兒童を本體としての研究をして置かねば實施の定見が立たないわけである。昔の一刻三里といふ事や、大人の一時間一里といふ大人の經驗本位から抽出して子供の遠足時配當をする事があるとせば無謀の極である東京高等師範學校乙竹教授は小學校遠足の標準距離として次の如く述べて居る。

- 尋一 往復二里
- 尋二 同 三里
- 尋三 同 四里
- 尋四 同 五里
- 尋五 同 六里



尋六 同 七里  
 高等科 同 八里乃至拾里

著者が都會地小學校兒童は經驗的に實地研究したる處に據れば乙竹教授の標準距離は此の距離以内とすべき上の限度を示すものと解し標準距離として適當の様に思ふ。勿論農村小學校に於てはより以上の記録を得るであらうと思ふ。之れ都會兒より農村兒の方が歩脚力が發達して居るからである。

二、距離及これに要する時間を測定せねばならぬ。

一體距離と所要時間とは一定するものではない。道路の平坦乃至は嶮路なるかによつて時間に差を生ずるものである。

三、休憩解散の場所及其の適否を十分考へねばならぬ。

之等について理論に實際に最もよく研究して居るのは陸軍の上官である。著者が六週間現役兵として麻布歩兵第一聯隊に入營して居た時、内教官殿に引率せられて赤坂

より千葉習志野に行軍した時の行軍實際は各方面から見て吾人に教ふる點が頗る多い参考のため日誌から採録する事とする。

行進時間	休憩時間	休憩地	摘要
時、分 〇、四〇	時、分 〇、一五	日々谷	武裝改装
一、一〇	〇、一五	兩國	
一、〇〇	〇、一五	龜戸	脱靴
〇、五〇	〇、三〇	小松川	朝食
〇、五〇	〇、一〇	市川西方	脱靴
〇、四五	〇、一五	市川東方	靴下脱
〇、三〇	〇、二〇	中山	脱靴
〇、三〇	〇、二〇	船橋手前	脱靴
〇、二〇	一、四〇	船橋	素食、大休憩
〇、四五	〇、二〇	津田沼	脱靴
〇、三〇	〇、二〇	木久保	脱靴



**四、著者の経験から次の様な事に注意するのが必要である。**

歩度は正しくして一定の速度がよい。

子供に休憩時に可成脱靴せしめるがよい。靴下を脱がせて休ませるもよい。

休憩地選定について不案内の時は先發隊を出すもよい。

大休憩時は四十分位がよい。そして全行程の半分道以上に達してからするがよい。

軍歌は音調と利用の時期宜しき時は元氣を回復するものである。然し早きに失する時は却つて疲勞するものである。

五、遠足の沿道及目的地については體育、知育、情育、意育、徳育上から研究して置かなければならぬ。

六、砂地及濕地がある道路ならば平坦な道に比べると生理的歩行量は殆んど倍以上を

示すさうである。(筋肉及神經力の消費が)其他風に向ふ時は呼吸器の害され抵抗力も大いに要する。

七、歩行に最も適するは身心の清新な早朝であるし、夜間の歩行や食後直ちに行ふなどは小學校にては避けねばならぬ。

八、遠足の初めから速力を出すはいけない。早朝だからとてよくない。次第に歩幅を増加する様にするがよい。

九、子供はよく其の遠足當日新しい靴をはいたり、平常使用せぬ履物を用ひたり、するが其の爲めに歩脚力を減する事は著るしいものである。注意せねばならぬ。

十、前後の飲食物及晝食辨當については質と量の上に十分注意せねばならぬ。之等のこと以外便秘、下痢の場合等については相當の知識を與へて置くがよいと思ふ。

**第四節 實地踏査研究**

遠足を實施するに思ひ付きで實行する人もないが、いつも圖上や頭上の調査のみで



やると失敗に終はる事がある。然し上級の學年即ち高等科あたりでは時々參謀本部地圖を携帯して兒童と共に豫定の行動によつて遠足する等の事は各方面から見て有益である。此の時は兒童と教師は共學的態度に立つ場合である。下級の學年には實地踏査の上に立つて實行するが最も教育的の効果を收める事が出来る。著者は其實施せんとする學級の兒童を二名引率して標準距離研究の遠足實施前に實驗して見た事があるが其遠足には強い信念を得て實際に行ひ得た。然し之れは常に行ふ必要もなし又常に行ひ得ない事でもある。

#### 第五節 遠足細目の調製

學年、學期、月乃至は學校、學級によつて實施すべき遠足細目を調製して、置かねばならぬ。各方面から循環的に實施せられ然かも發展的に行はれる事となり、教育も偏せず、且つ教師も便であると思ふ。

#### 第六節 準備事項

第一救急藥品を各組別に用意して行かねばならぬ。藥品及用具の内容は其の遠足地點及順路の如何によつて其の都度變更して適合せしめるがよい。小學校の遠足の實施にいつも大仕懸の衛生隊を編成して救急藥品及用具の全部を運搬するは實際としては出來得べからざる事である。救急の意で簡易な然かも衛生的の用具及藥品を調度するがよい。即ち脱脂綿、繃帶、ガーゼ、コロダイン。仁丹、絆創膏、ヨードホルム、硼酸水、ピンセット位を用意し、使用法を辨へて居ればよいと思ふ。

第二には運動用具の準備である。途中又は目的地點に於ける遊戯競技の種類により之れに要する用具を準備するがよい。

#### 第七節 實施中の注意

第一に集合解散から整頓、傳令、人員點呼等すべて代表者を先頭として自治的の行動に出でしめ兒童の運動會の目的を徹底せしめるがよい。第二には研究に對しては自由活動を許さねばならぬ。自由活動の研究でなければ目的の貫徹は望まれない。第三



には危険から常に遠ざけねばならぬ。身體的の災害、精神的の悪影響について豫防の途を不斷講せねばならぬ。

#### 第八節 處理の實際

個人的の仕事としては綴方として發表せしめたり、遠足地の描圖をさせたり、記憶畫として表はさしめたりして精神的方面の收獲の整理をし、地理、歴史、理科に關係した採集物の整理をなさしめるがよい。團體的には代表者會議を開いて感想批判をなさしめて其の意見のある處をまとめさせ、改善上の資料たらしめるがよい。勿論記録として整理し置くがよい。

## 第六編 自然開放教育論

### 第一章 目的論

天與の自然界に兒童を開放して新鮮なる空氣と日光とをより多く受けしめ、一面兒童には保養的生活をなさしめ、知育方面に於ては其の保養的生活中に自然界乃至自然界と人文界との關係交渉事項を直觀的に學習せしめて學習の基礎乃至は學習の進行乃至學習の整理をなさしめ、體育方面に於ては生理方面、心理方面より體量の増加を來たし、身體發育の良刺戟を與へ、兒童生活の本質的充實を與へ、身體力乃至精神能力を向上せしめ鍛鍊せしめる。德育方面に於ては道德感化を惹起し、都會環境より受くる不良性感作を除き、兒童と教師との情意交渉がより多く行はれ、實際行動の指導乃至感化陶冶が行はれ、且つ自然界より受くる自然の和氣は兒童の上にも強く響くと思



ふ。故に自分は出来得るだけ自然界に開放して自然活動界によつて自然的乃至文化的の教育をなすべき事を主張するものである。

#### 歴史的管見

古代に於てはすべて郊外丘陵森林に行つて身體的鍛鍊をなしつゝ自己獨力或は教師について事物を學習する事は自然に行はれて居た様である。即ち靜寂なる學問所として或は世間を超越した舊信仰から或は感情修養から或は實際教育から行はれて居た。然るに文明の進歩は此の開放教育より校内教育乃至室内教育に變遷推移するに至つた。即ち此の思潮はギリシヤの哲學者輩出時代からであつた様である。

其後コメニウス、エラスムス、モンテニユー、ペーコン、ロツク、ルーソー、ベヌタロツチー、フレーベル等によつて自然による教育は唱へられた。

下つて第十九世紀の末より第二十世紀にかけて主張せられ、乃至は實行せられ近時歐米に於て盛に實施せられつゝある露天學校は自然を出来得る限り利用して自然的の

身心教育をなすものであるが、此處に主張する開放教育は生理的障礙兒の治療的意味の教育ではない。

此の露天學校は疲労問題授業過擔問題等の論争の結果、醫者と教育者の協力によつて治療的見地、醫術的見地より設立せられたものである。

理想的の方法としては山地、高原、海岸、平野乃至は郊外に一學級兒童を家庭的に收容し得る家屋を有して衛生的に經濟的に比較的永く滞在し得る様な備を學校が管理乃至所有して意識的に具案的に實行するにある。家屋を有しない迄も天幕生活乃至は地方民家の借受け或は小學校舎の妥協的充當をなし得るならば其の便は非常なものと思ふ。或はデンマルクのコペンハーゲンで實行せられたフェリエンコロニーの様都市兒童と其の都市兒童の赴く地方の小學校兒童と交替して家庭も委託交換して、田舎兒は名所名物による自然と文化との關係的教育をなし、都會兒は自然の研究を進めしめる事は兩者一層の體育知育。德育の成績を收め得るのである。余は此の内容的意



義の教育を生理的障礙兒は勿論身心普通なる兒童に實施して、勿論方法としては消極的方法にのみ走らず積極的消極的は身心の個性に合致せしめ、より以上の消極的積極的なる身心教育をなす事を目的理想とするものである。

## 第二章 實際論

何れの學校に於ても毎年の夏季及冬季休暇は勿論のこと其の間の日曜祭日には野外作業乃至野外自然研究乃至は野外活動を獎勵して居るが然し、家庭の多くは種々の事情によつて實際實行し得ない事情が多い。其故學校に於ては夏季休暇或は冬季休暇又は日曜等には場所を移動的に選定して兒童を學級的に、部分的に、個人的に導き出して規則的或は自由に自然教育をする必要がある平日に於ても時々郊外に出で、自然的を受辱く旨心る様にするは最も効果の大なるものである。

### 一、經費

兒童の經費としては保護者會乃至は後援會等の支出か又は自辨による外はないが、自辨の場合は何れの學校に於ても其の經費の高に制限せられ易い。そして一般兒童は折角の學校方針によつて恩恵を受けない事が多い。其故に保護者會又は後援會等より支出するのが理想である。

### 二、場所

遠足としては、目的が自然と文化の中に開放しての教育であるから、歴史的地理的理科的等直觀材料の豊富なる場所がよい。即ち、

### 體育的方面

體育的には第一空氣が新鮮なる地方がよい第二には山坂の多い地方、或は平坦を伴ふ地方、第三には危険の伴はぬ地方がよい。第四に海岸地方を選定する時は混雜せぬ地方を選ぶがよい體育上からのみではない。教育的に見ても必要である。

### 知育的方面



知育的方面からは自然物が多く即ち動植礦物が豊富であつて、自然状態が動的方面からも靜的方面からも觀察し得る處、又自然現象と人事現象との關係交渉がよく行はれて居る處がよいと思ふ。都市小學校の兒童も其の都市の活動乃至は文化施設の觀察乃至體驗はして居るでせうが、其都市は必ずしも都市としての各方面の活動乃至文化を總べて代表して居るものではない。必らず各都市特有の彩色があるものであるから都市の研究も必要である。

#### 徳育的方面

品性修養上から見ては無害の地を選ばねばならぬ。尙ほ進んでは眞實の美感を養ひ得る土地ならば理想的である。

#### 衛生的方面

可成海濱山林がよい。かゝる地は空氣が新鮮であるからである。尙ほ飲料水の水質に注意し飲食物乃至辨當の質及量に注意が必要である。寢室屋内等兒童の身體に着す

る者は一切清潔で衛生上の諸要件に合致するものでなければならぬ。

#### 教育的方面

教育の目的から考察しては勿論以上の諸要求に比較的多く合致する土地を選択して實施するに越した事はない。それで始めて目的が貫徹し得られるのである。次に神奈川縣女子師範學校附屬小學校に於ける實施地を参考のため掲げる事とする。

#### 海岸地方

本牧根岸方面、杉田方面、江之島、鶴沼方面鎌倉、逗子、葉山方面、三浦半島の一帯、大磯平塚方面、國府津小田原方面、鶴見川崎大師方面、矢口池上方面、

#### 山地々方

箱根足柄方面、大山方面、高尾山方面、

#### 平原地方

相模平野（高座郡中郡方面）

#### 郊外

程ヶ谷岡野公園方面、豊顯寺方面、神奈川、生麥方面、

#### 三、作業

#### 體育的方面



自然の教室、自然の運動場に導かれて自然の中で自然抵抗の生活をする。即ちオゾンが多い空気を呼吸し、比較的紫外線の強い日光に浴しながら、自然的の地形即ち斜面の山地凹凸面の高原平野を自己の運動物として自由に或は定められた方法、定められた道程を運動する。名目を舉げて見ると、

山野跋涉、海水浴、運動、平地徒歩、登山、野宿、搜索、自由行動、自由遊技  
(フットボール、魚釣り、野球、庭球)

此の様な事が行はれるのである。

#### 知育的方面

都會地の兒童は人爲的環境にのみ生活するから見聞する事項に非常な制限を受けて居る。即ち草木は公園に動物は路道の駄馬や牛車家庭の猫位に限られて居て眞の生物學的生命力の認識乃至は觀察眼等は養はれない。其故此等の兒童には動物飼養の實際、習性の實地目撃により家禽に對する興味を増さしめ、原野に自然に生育しつつあ

る野禽昆虫に對しては親しみを感じて研究精神を誘發し、四季折々に移り變り行く花の研究、作物栽培乃至收穫の實況を見學せしめる等により地理科、博物乃至、物理化學農業及び之れに關係したる教科についての自己研究乃至説明の助けとし或は研究主體として取扱ふ。

#### 徳育的方面

眞實の自然美感により圓滿なる品性發達を促し得る。即ち感情的並に美的乃至藝術的興味、宗教的發展の萌芽を培ひ得る。農夫の勤勉質素の状態を實地觀察して農夫及農業に對する眞の尊敬心を養ひ。動物生活に對する理解は一般的同情心の涵養となり動物に對して慈悲心と愛護の念を教養し得る。要するに自己の感情は他の自然物の感情となり、自然物感情は自己の心中に感じて自然と心情との交通が開けるので即ち生命の交通とでも云ふべきである。

#### 四、兒童研究日程の作製と處理、



兒童に研究日程を作製せしめ、其の研究過程及研究物を輔導によつて處理せしめるがよい。勿論研究に對して指導輔導が必要である。

(終り)

昭和二年十月三日印刷  
 昭和二年十月七日發行  
 文化中心新教授學大系  
 第十一卷 體操新教授法  
 定價 壹圓五拾錢



著 者 山 崎 博  
 發行兼印刷者 辻 本 經 藏  
 印刷所 明立印刷株式會社  
東京市本郷區駒込坂下町一三六

發行所 東京市麴町區富士見町五の九  
 教育研究會  
 振替口座東京五八一八〇番・電話九段七二七番

(本製津大)



# 文 化 中 心 新 教 授 大 學 系

## 本大系の監修者

東京高等師範學校教授  
東京帝國大學助教授  
奈良女子高師教授

佐々木秀一先生  
入澤宗壽先生  
石澤吉麿先生

◇本大系全十五卷の著者

第一卷	新教授法原論	入澤宗壽
第二卷	修身新教授法	野村芳兵衛
第三卷	國語新教授法(上)	峯地光重
第四卷	國語新教授法(下)	峯地光重
第五卷	算術新教授法	水木梢
第六卷	地理新教授法	菊地勝之助
第七卷	國史新教授法	志垣寛
第八卷	綴方新教授法	峯地光重
第九卷	理科新教授法	水木梢
第十卷	家事新教授法	石澤吉麿
第十一卷	體操新教授法	山崎博
第十二卷	唱歌新教授法	小出浩平
第十三卷	圖書手工新教授法	稻森縫之助
第十四卷	各科教授實際案	田島體験學校
第十五卷	文化教育學と文化科教授法	入澤宗壽

# 文 化 中 心 新 教 授 大 學 系

體 裁 四六判。上製金泥模様。函入。本文紙數三百乃至四百五十頁。在來の定價にて二圓五十錢以上に相當のもの。

頒布方法 全部十五卷。豫約金を要せず。一冊でも三冊でも自由選擇が出来ます。

刊行期日 昭和二年九月一日より申込順に依り發送ス。六ヶ月以内に全部送達。

價 格 一冊一圓五十錢(送料十二錢)七冊分 金九圓五十錢也 十五冊分 金二十圓也(全十五卷申込者へ本立進呈)

拂込方法 振替口座東京五八一八〇番又は大阪六八八八〇番を御利用の事。

申 込 所 東京市麴町區富士見町五丁目九番地

申 込 次 第 内 容 見 本 進 呈

教 育 研 究 會

振替口座東京五八一八〇番  
振替口座大阪六八八八〇番  
電話九段七二七番







九州帝國大學教授 文學士 松濤泰巖著  
**全我活動の教育**  
(プロジェクト・メソッド)  
定價三・〇〇 送料一・一八

東京帝國大學教授 文學士 入澤宗壽著  
**教育史概説**  
定價一・八〇 送料一・一八

京都帝國大學 文學士 高橋俊乘著  
**日本教育史**  
定價三・〇〇 送料一・一八

文學士 林謙次郎著  
**最新歐米教育史**  
定價三・八〇 送料一・一八

製上皮脊判六四  
頁餘十七百三

製上最判六四  
頁十五百三

製上皮脊判六四  
頁十九百三

製皮脊判六四  
頁十五百四

教育界の新潮たるプロジェクト・メソッドの批判的研究である。著者は歐米に留學し親しくこの教育法を視察し歸朝以來敢てその研究を怠らざる篤學の士である。この種の著書は他にないことにはないが、本書の如く理論及び實際の兩方面に涉りて詳密なる叙述をなしたるは未だ見當らない。

我國に教育史の書物は多いが、此の書ほどまとまつて居て權威あるものは澤山あるまい、本書は内外古今の總てに渡り最も興味深く叙述されたものであつて、教育家の好參考たるのみならず各種専門學校の教科書としても採用せられて居る。

要目  
第一章 日本教育史の概  
第二章 上代の教育  
第三章 奈良朝の教育  
第四章 平安朝の教育  
第五章 鎌倉時代の教育  
第六章 室町時代の教育  
第七章 江戸時代の教育  
第八章 結語  
附録 一、年表  
二、索引

本書は文藝復興期以後に於ける歐米教育の理論及び實際の發達を最も斬新な方法で叙述したものである。教育實際の背景を明かにせんがために當時の社會情態を叙し、教育理論の根據を探らんがために時代思潮の研究に意を用ひた。その資料の精確なるは勿論、その叙述法の巧妙なるも又一特色である。

東京帝國大學 文學士 入澤宗壽著  
**教育史圖表**  
定價一・八〇 送料一・一八

文學士 鶴藤幾太著  
**實際教育論**  
定價三・〇〇 送料一・一八

文學士 高木秀一著  
**個人價值論**  
定價三・〇〇 送料一・一八

東京帝國大學教授 文學博士 吉田熊次著  
**ドルトンのプランの批判**  
定價一・八〇 送料一・一八

製上最判六四  
頁十五百二

製上判六四  
頁十數百四

製上皮脊判六四  
頁十七百三

製上判六四  
頁十三百二

本書は著者の「教育史概説」に對する圖表であるが、單獨には教育史の鳥瞰圖である。多くの地圖と多くの銅版とを挿してそれを年代順に配し、一目のもとに教育史の概要を充知する事の出来るやうにしたものであつて、一面教育家の肖像を極めて豊富に挿入した教育家列傳でもある。

著者が滿五箇年間各地の中學校に教育實際家として眞剣に苦しみ考へた貴い體験からの收穫である。クラス管理のこと、生徒訓誡の法、不養生や劣等生に對する陶冶、其他性教育や修學旅行校則など中等教育凡百の實際問題に就て豊富な經驗と卓抜な對案が披瀝されて居る。

教育は個人の價值を基礎として行はなければならぬ。これを無視する教育は存在しない、この意味に於て教育は高き道德的意義を持つのである。著者はその専門の立場から縦横に個人の價值を論じ、それと教育との密接なる關係を明かにせられたもので、教育的倫理學に關する尊き研究である。

ドルトン・プランの理論と實際(土屋周作)本邦に於けるドルトン・プランの狀況(淺井誠)エマーソンの思想とバートン・プランの教育説との關係(吉田熊次)スキフットの思想とバートン・プランの教育思想の關係(海後宗臣)モンテッソーリ教育法とドルトン・プラン(陳堯成)ドゥイの教育思想とバートン・プランの思想の關係(小澤大助)ドルトン・プランの思想の傳統(吉田熊次)



東京帝國大學 文學士入澤宗壽著  
助教 教授

論 理 學

定價三・五〇 送料・二四

早稻田大學 教授 内ヶ崎作三郎著  
人 生 學

定價二・八〇 送料・一八

文部省檢定委員 早稻田大學教授 中島半次郎遺著  
教 育 の 本 質

定價二・〇〇 送料・一二

教育總監部附 大正大學教授 陸軍 教授 文學士大村桂巖著  
國 民 教 育 の 根 本 義

定價一・二〇 送料・一二

四六四頁

本書は最も新しき論理學書であつて、各種専門學校教科書として現今最も廣く採用されて居るものである。學生教授者一般の參考書たるに止まらず、中等教員受験者には無二の好同伴であらう。

四六五頁

人生の眞體を闡明し人心の歸結すべき所を示し健全なる人生觀世界觀を樹立するは識者の正に努むべき所であらねばならぬ。内ヶ崎先生はこの人生學に於て多年の蘊蓄を傾け人生問題の種々相を明にせられた。久しく筆をとられなかつた先生の好著を讀書界に送り出すことは出版者の大きな喜びである。

四六四頁

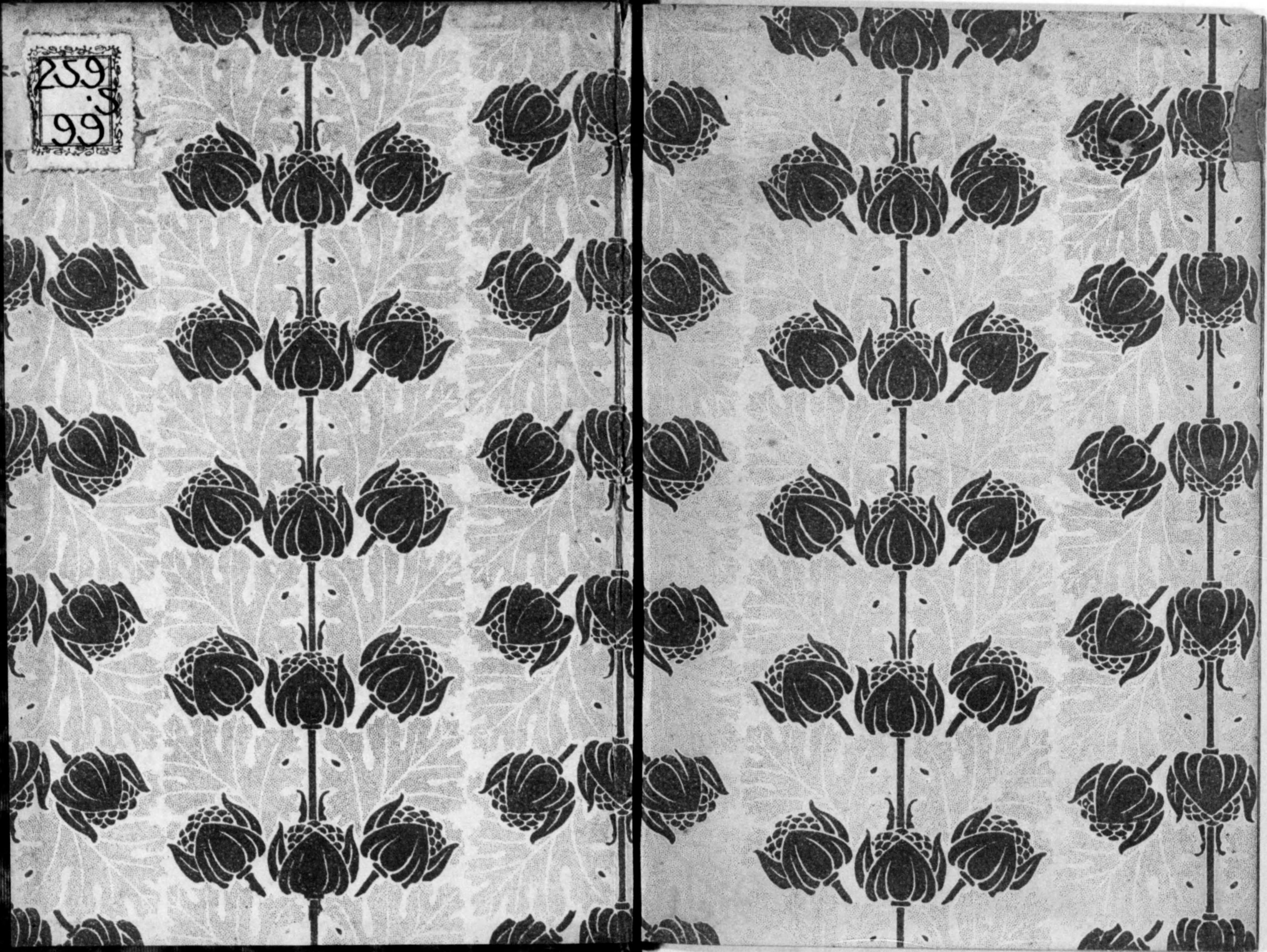
一、(要 摘 容 内) 一、教育の起原と其の動機  
二、社會の進化と教育  
三、社會性  
四、社會教育  
五、教育の目的  
六、教育者としての社會教育  
七、教育者と社會教育  
八、家庭教育  
九、社會教育  
十、社會教育の學術的研究  
十一、教育文學  
十二、宗教教育  
十三、教育的精神

四二六頁

流轉する新思想のため、喧嘩時代において憚む我が教育界に、又我が學徒に對して、本書の刊行こそは實に國民への救ひの指針であらねばならぬ。最も健實にして美しき我國體の中樞に根ざして、廣く深く愛の眞心を以て説かれたる大村先生の國民教育の根本問題に於ける意見書である。



259  
99





終

